

****文学部****

明治学院大学履修要項
2017年度生用

2021
Meiji Gakuin University

目次

はじめに	学部共通 (学暦・はじめ に・学修の手 引き)があり ますので、そ ちらをご覧ください。
情報の伝達	
学修の手引き	
カリキュラム	
単位制	
履修	
授業	
試験	
成績	
卒業と学位	
単位認定	
明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム	
明治学院共通科目	3
英文学科	17
フランス文学科	32
芸術学科	44
学芸員	66
諸資格	
社会福祉主事任用資格	68

2017年度生用

明治学院共通科目

人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目の主たる開講責任を負う教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、明治学院大学の教養教育の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる人材の養成を目的とする。そしてその実現のための教育目標として、外国語教育と諸領域科目の教育が連携し、確かな思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進する。

外国語教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解の促進を助成するとともに、学生の自律的学習姿勢の涵養に必要な環境を整える。また、諸領域科目の教育においては、専門的知見の教授を通して、学生が問題を的確に理解するための読解力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることができるよう指導する。

期待される学修成果

教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成する。学生は、明治学院共通科目を体系的に学修し、所定単位を取得することにより、次の態度、知識、技能を身につけることが期待できる。

- 1 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ社会参加を通して他者への貢献を目指す態度
- 2 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に考え、的確に価値の判断を行う能力
- 3 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する技能
- 4 他者とのコミュニケーションに必要な基盤的技能を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自主的努力をつづける態度

教育課程の編成および実施に関する方針

教養教育センターは、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、教養教育センターの定める「人材養成上の目的・教育目標」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 明治学院共通科目を、C群(必修・選択必修)・D群(分野別の基礎的講義科目)・E群(実験・実習・演習的科目)・H群(発展的科目)・I群(英語で学ぶ授業)の各群により構成する。

- 2 C群(必修・選択必修)

(1) 外国語科目

英語によるコミュニケーション能力の向上、初習語における基礎的運用能力の育成を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「英語コミュニケーション」を1年次に配当する。

高等学校等で英語を学習していない学生には、「初習英語」を1年次に配当する。

留学生には、「日本語」科目を配当する。

選択必修：フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語を選択言語科目として配当する。

留学生は、日本語以外の言語、もしくは、E群「日本語研究」を必修とする。

(2) 諸領域科目

建学の精神を理解し、他者への貢献を実現するために必要な知見と技能の獲得を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「キリスト教の基礎」を1年次に配当する。

選択必修：「コンピュータリテラシー(入門)・(初級)」を1年次に配当する。

要求科目：「アカデミックリテラシー」を1年次配当で政治学科生に開講する。

要求科目：「社会学1」を1年次配当で社会学科生に開講する。

3 D 群科目(分野別の基礎的講義科目：自由選択)

明治学院共通科目の期待される学修成果に示した 1～4 について、幅広い学問分野における基礎的知識と正確な判断力を涵養するため、「人文科学系科目」、「社会科学系科目」、「自然科学系科目」、「健康・スポーツ系科目」、「総合教育系科目」の各分野・領域において諸科目を開講する。各授業科目には、個別の授業テーマが提示される。

4 E 群科目(実験・実習・演習の科目：自由選択)

明治学院共通科目の期待される学修成果 1～4 について、より発展的かつ実践的な能力を身につけるため、下記の科目を開講する。

(1) 外国語科目

英語のリスニング(聞く・話す)に加え、リーディング(読む・書く)強化を目指して、英語研究を 2 年次以上に担当する。

初習語学修の進展を目指して、C 群で選択した初習語のインテンシブクラスとして各言語の「特別演習」を 1 年次以上に担当、また C 群で選択した言語以外の言語の基礎的な学修として各言語の「基礎」を 1 年次以上に担当する。

初習語によるコミュニケーション能力の養成のため、「(初習)語研究」を 2 年次以上に担当する。

留学希望の学生支援のため、「各言語特別研究」を開講する。

(2) 諸領域科目

情報処理能力、科学的思考力、身体能力、市民社会への参加、論文書法能力について、それぞれ実践的に学修するために、「コンピュータリテラシー研究」、「自然科学(物理学・化学・生物学)方法論」、「シーズンスポーツ研究」、「ボランティア特別研究、実習」「アカデミックリテラシー研究」を開講する。

5 H 群科目

明治学院共通科目の応用・発展的段階として、各自の関心あるテーマに基づき文献検索や調査・実験等を行いながら問題解決に必要な総合的能力とプレゼンテーション能力の向上を目指して、「リサーチ&プレゼンテーション」を 2 年次以上に担当すると共に、「アジア・日本研究」、「ヨーロッパ文化圏研究」、「現代科学研究」を 3 年次生以上に担当する。

6 I 群科目

幅広い教養に基づいて様々な文化的背景をもった人と相互に交流するとともに、自他の文化についての相対的な視点を獲得することを目指して、交換留学生とともに英語で学修する科目を 1 年次生以上に担当する。

[履修上の注意]

- ①A・Bあるいは1～8はそれぞれ独立した科目である。なお、原則としてA・Bは、同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時限に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。
- ②以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。1年次配当科目とは、1年次以上の学生が履修できることを意味している。
- ③特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時限に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。
(例:「キリスト教の諸相1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ)
- ④修得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。
- ⑤履修可能なクラスの開講学期等については、Port Hepburnの[時間割表 \(開講科目情報\)](#) —[時間割表](#)で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。

[科目コードについて]

明治学院共通科目には科目コードが付番される。その意味は下記のとおりとなる。

<u>C・D・E・H・I</u>	+	<u>1～3</u>	+	<u>0～9</u>	+	<u>0～9</u>	+	<u>1～8</u>
科目群(シラ)		配当年次		科目群内の当該科目固有番号				
		(千の位)		(百の位以下)				

科目例：C1011 キリスト教の基礎 A
D1001 キリスト教の諸相 1

[C 群科目]

必修および選択必修科目。以下の基本科目 1～3 について、それぞれ所定の単位を修得すること。

1. キリスト教基本科目

全学必修のキリスト教関連科目。A・Bそれぞれ2単位、計4単位を修得しなければならない。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	C1011 キリスト教の基礎 A	2	春	1	C1012 キリスト教の基礎 B	2	秋

2. 外国語基本科目

(文学部各学科の履修一覧)

	英語コミュニケーション	初習英語	フランス語	中国語	ドイツ語	スペイン語	ロシア語	韓国語	日本語
英文学科	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×
	履修不可能		いずれか一言語を選択必修						履修不可能
フランス文学科	●	英語を学んでいない者が対象	●	○	○	○	○	○	×
	必修		必修	選択科目として履修可能					履修不可能
芸術学科	●	英語を学んでいない者が対象	◎	◎	◎	○	○	○	留学生対象科目
	必修		いずれか一言語を選択必修		選択科目として履修可能				

- ・表においては、●：必修 ◎：選択必修 ○：選択 ×：履修不可能 を表す。
- ・E群科目「○○語の基礎」との関係：選択した初習語と同一言語の「○○語の基礎」は履修できない。
- ・「初習英語」1A・B、2A・Bは、高等学校等で英語を学んでいない者だけが履修できる。なお、この科目は横浜校舎のみの開講である。

英文学科 —フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、韓国語のうちから、いずれか1言語を選択し、8単位（C群科目「○○語」1A・1B・2A・2BとE群科目「○○語研究」1A・1B・2A・2Bから4単位の計8単位）を修得しなければならない。なお必修の8単位を超過して修得した場合は、明治学院共通科目の選択（24単位）に算入される。

フランス文学科 —C群科目「フランス語」1A・1B・2A・2BおよびE群科目「フランス語研究」1A・1B・2A・2B（計12単位）と「英語コミュニケーション」1A・1B・2A・2B（計4単位）を修得しなければならない。必修の「フランス語」および「英語コミュニケーション」以外の外国語を修得した場合は、単位群V（自由選択）または単位群VI（明学科目及び学科科目）に算入される。

芸術学科 英語4単位（「英語コミュニケーション」1A・1B・2A・2B）のほか、初習語としてフランス語、ドイツ語、中国語の3言語から1言語を選択し8単位を修得しなければならない。（内訳はC群科目「○○語」1A・1B・2A・2Bから4単位とE群科目「○○語研究」1A・1B・2A・2Bから4単位。）

必修の英語（4単位）および選択必修のフランス語、ドイツ語、中国語（同一言語で8単位）以外の外国語を修得した場合は、明治学院共通科目IV自由選択または、V明治学院共通科目および学科科目の単位に算入される。

なお、留学生については、日本語4単位（「日本語」1A・1B・2A・2B）とフランス語、ドイツ語、中国語から1言語で8単位を修得すること。「英語コミュニケーション」については、スペイン語、ロシア語、韓国語と同様に選択科目として履修可能とする。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	C1111 英語コミュニケーション 1A	1	春	1	C1112 英語コミュニケーション 1B	1	秋
1	C1113 英語コミュニケーション 2A	1	春	1	C1114 英語コミュニケーション 2B	1	秋
1	C1131 初習英語 1A	1	春	1	C1132 初習英語 1B	1	秋
1	C1133 初習英語 2A	1	春	1	C1134 初習英語 2B	1	秋
1	C1211 フランス語 1A	1	春	1	C1212 フランス語 1B	1	秋
1	C1213 フランス語 2A	1	春	1	C1214 フランス語 2B	1	秋
1	C1311 中国語 1A	1	春	1	C1312 中国語 1B	1	秋
1	C1313 中国語 2A	1	春	1	C1314 中国語 2B	1	秋
1	C1411 ドイツ語 1A	1	春	1	C1412 ドイツ語 1B	1	秋
1	C1413 ドイツ語 2A	1	春	1	C1414 ドイツ語 2B	1	秋
1	C1511 スペイン語 1A	1	春	1	C1512 スペイン語 1B	1	秋
1	C1513 スペイン語 2A	1	春	1	C1514 スペイン語 2B	1	秋
1	C1611 ロシア語 1A	1	春	1	C1612 ロシア語 1B	1	秋
1	C1613 ロシア語 2A	1	春	1	C1614 ロシア語 2B	1	秋
1	C1711 韓国語 1A	1	春	1	C1712 韓国語 1B	1	秋
1	C1713 韓国語 2A	1	春	1	C1714 韓国語 2B	1	秋
1	C1811 日本語 1A	1	春	1	C1812 日本語 1B	1	秋
1	C1813 日本語 2A	1	春	1	C1814 日本語 2B	1	秋

- ・英語以外の言語について、既習している言語を選択する際には必ず教務課窓口にご相談すること。
- ・原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。ただし、特別の事情があり、オリエンテーション期間に申し出た者については、科目責任者が判断する。

3. 情報処理基本科目

コンピュータに関する選択必修科目。

- ・「コンピュータリテラシー1」は入門クラス、「コンピュータリテラシー2」は初級クラスである。学生は、自らの習熟度を判断して1または2を選択し、2単位を修得しなければならない。なお、それぞれの授業内容については、シラバスを参照すること。
- ・入学時に中級以上の技能を有する学生については、E群科目「コンピュータリテラシー研究」1A・1B・2A・2Bから2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	C1911 コンピュータリテラシー 1	2	春または秋	1	C1912 コンピュータリテラシー 2	2	春または秋

[D 群科目]

分野別の基礎的講義科目。以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。

・それぞれの科目の科目番号ごとの内容は、シラバスに（授業テーマを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。

1. 人文科学系科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	D1001～1008 初外教の諸相 1～8	各2	春・秋	1	D1011～1018 宗教史 1～8	各2	春・秋
1	D1021～1028 哲学 1～8	各2	春・秋	1	D1031～1037 倫理学 1～7	各2	春・秋
1	D1041～1048 論理学 1～8	各2	春・秋	1	D1051～1054 言語の科学 1～4	各2	春・秋
1	D1061～1068 心理学 1～8	各2	春・秋	1	D1071～1072 教育学 1～2	各2	春・秋
1	D1081～1088 芸術学 1～8	各2	春・秋	1	D1091～1098 日本文学 1～8	各2	春・秋
1	D1101～1108 ヨーロッパ言語圏の文学 1～8	各2	春・秋	1	D1111～1116 アジア言語圏の文学 1～6	各2	春・秋
1	D1121～1128 日本文化論 1～8	各2	春・秋	1	D1131～1138 ヨーロッパ言語圏の文化 1～8	各2	春・秋
1	D1141～1148 アジア言語圏の文化 1～8	各2	春・秋				

※ 3年次以上で「哲学（専）」1・2を履修するためには、「哲学」1～8「倫理学」1～7「論理学」1～8のうち、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

※ 「心理学」3～8を履修するためには、「心理学」1・2の単位修得が望ましい。

2. 社会科学系科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	D1201～1202 法学（日本国憲法を含む）1～2	各2	春・秋	1	D1211～1212 政治学 1～2	各2	春・秋
1	D1221～1228 社会学 1～8	各2	春・秋	1	D1231～1232 社会福祉学 1～2	各2	春・秋
1	D1241～1242 経済学 1～2	各2	春・秋	1	D1251～1254 統計学 1～4	各2	春・秋
1	D1261～1268 歴史学 1～8	各2	春・秋	1	D1271～1278 地理学 1～8	各2	春・秋
1	D1281～1282 文化人類学 1～2	各2	春・秋	1	D1291～1294 社会科学概論 1～4	各2	春・秋

3. 自然科学系科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	D1401～1408 数学 1～8	各2	春・秋	1	D1411～1416 物理学 1～6	各2	春・秋
1	D1421～1426 化学 1～6	各2	春・秋	1	D1431～1437 生物学 1～7	各2	春・秋
1	D1441～1442 生命科学 1～2	各2	春・秋	1	D1451～1454 情報科学 1～4	各2	春・秋

4. 健康・スポーツ科学系科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	D1601～1602 健康科学 1～2	各2	春・秋	1	D1611～1612 スポーツ科学 1～2	各2	春・秋
1	D1621～1624 スポーツ方法学 1～4	各2	春・秋				

※ 履修に際しては、『明治学院共通科目 健康・スポーツ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

5. 総合教育系科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	D1801～1808 現代世界と人間1～8	各2	春・秋	1	D1811～1813 明治学院研究1～3	各2	春・秋
1	D1831～1836 環境学1～6	各2	春・秋	1	D1841～1848 ホランティア学1～8	各2	春・秋
1	D1851 ライフデザイン講座1	2	春または秋	1	D1871～1873 現代平和研究1～3	各2	春・秋
2	D2821～2822 オルガン実習1～2	各2	春・秋	2	D2852 ライフデザイン講座2	2	春または秋
2	D2861 キャリアデザイン1	2	春または秋	3	D3853～3854 ライフデザイン講座3～4	各2	春・秋

※ 「オルガン実習」1～2は実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。

[E 群科目]

実験・実習・演習の科目。履修者数が制限されることがあるので、履修希望者はシラバスを参照すること。

※A・Bは独立した科目であるが、可能な限り同一曜時間の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時間に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。

1. 「特別演習〇〇語」

- ・C群の2で選択した初習語と同じ言語について、さらに学修機会を増やすことを希望する学生のためのインテンシブクラスである。
- ・原則として「初習語」1A・B、2A・Bと同一年次に履修するものとする。
- ・この科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1101 特別演習フランス語 A	1	春	1	E1102 特別演習フランス語 B	1	秋
1	E1111 特別演習中国語 A	1	春	1	E1112 特別演習中国語 B	1	秋
1	E1121 特別演習ドイツ語 A	1	春	1	E1122 特別演習ドイツ語 B	1	秋
1	E1131 特別演習スペイン語 A	1	春	1	E1132 特別演習スペイン語 B	1	秋
1	E1141 特別演習ロシア語 A	1	春	1	E1142 特別演習ロシア語 B	1	秋
1	E1151 特別演習韓国語 A	1	春	1	E1152 特別演習韓国語 B	1	秋

2. 「〇〇語の基礎」

- ・C群の2で選択した初習語以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのインテンシブクラスである。したがって、C群の2で選択した初習語と同一の言語について、以下の科目を履修することはできない。
- ・年次を問わず履修することができる。
- ・この科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1201 フランス語の基礎 A	1	春	1	E1202 フランス語の基礎 B	1	秋
1	E1211 中国語の基礎 A	1	春	1	E1212 中国語の基礎 B	1	秋
1	E1221 ドイツ語の基礎 A	1	春	1	E1222 ドイツ語の基礎 B	1	秋
1	E1231 スペイン語の基礎 A	1	春	1	E1232 スペイン語の基礎 B	1	秋
1	E1241 ロシア語の基礎 A	1	春	1	E1242 ロシア語の基礎 B	1	秋
1	E1251 韓国語の基礎 A	1	春	1	E1252 韓国語の基礎 B	1	秋
1	E1261 イタリア語の基礎 A	1	春	1	E1262 イタリア語の基礎 B	1	秋
1	E1263 アラビア語の基礎 A	1	春	1	E1264 アラビア語の基礎 B	1	秋
1	E1265 タイ語の基礎 A	1	春	1	E1266 タイ語の基礎 B	1	秋

3. 「〇〇語研究」・「〇〇語特別研究」

- ・英語およびC群の2で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのインテンシブクラスである。「〇〇語研究」1A・B、2A・Bは2年次から、「〇〇語研究」3A・Bは3年次以上から履修が可能となる。いずれも各学期2単位科目である。
- ・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下

の「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語コミュニケーション」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。

- ・C群の2で選択した「初習語」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下の「〇〇語研究」を履修することは望ましくない。
- ・「英語特別研究」101、102は1年次で「英語コミュニケーション」に加えてリテシー（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのインテシブクラスである（英文学科、国際学科、国際キャリア学科を除く）。
- ・「英語特別研究」111～118、「フランス語特別研究」111～112、「ドイツ語特別研究」111～112、「スペイン語特別研究」111～112、「韓国語特別研究」111～112、「中国語特別研究」111～112は留学を希望する学生を支援する留学準備のためのインテシブクラスである。履修に際しては一定の語学力を必要とされるため、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。履修の制限を伴う科目もあるので、必ず事前にPort Hepburnや配布資料等にて確認し、指示に従うこと。
- ・これらの科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
2	E2401 英語研究 1A	2	春	2	E2402 英語研究 1B	2	秋
2	E2403 英語研究 2A	2	春	2	E2404 英語研究 2B	2	秋
3	E3405 英語研究 3A	2	春	3	E3406 英語研究 3B	2	秋
2	E2411 フランス語研究 1A	2	春	2	E2412 フランス語研究 1B	2	秋
2	E2413 フランス語研究 2A	2	春	2	E2414 フランス語研究 2B	2	秋
3	E3415 フランス語研究 3A	2	春	3	E3416 フランス語研究 3B	2	秋
2	E2421 中国語研究 1A	2	春	2	E2422 中国語研究 1B	2	秋
2	E2423 中国語研究 2A	2	春	2	E2424 中国語研究 2B	2	秋
3	E3425 中国語研究 3A	2	春	3	E3426 中国語研究 3B	2	秋
2	E2431 ドイツ語研究 1A	2	春	2	E2432 ドイツ語研究 1B	2	秋
2	E2433 ドイツ語研究 2A	2	春	2	E2434 ドイツ語研究 2B	2	秋
3	E3435 ドイツ語研究 3A	2	春	3	E3436 ドイツ語研究 3B	2	秋
2	E2441 スペイン語研究 1A	2	春	2	E2442 スペイン語研究 1B	2	秋
2	E2443 スペイン語研究 2A	2	春	2	E2444 スペイン語研究 2B	2	秋
3	E3445 スペイン語研究 3A	2	春	3	E3446 スペイン語研究 3B	2	秋
2	E2451 ロシア語研究 1A	2	春	2	E2452 ロシア語研究 1B	2	秋
2	E2453 ロシア語研究 2A	2	春	2	E2454 ロシア語研究 2B	2	秋
3	E3455 ロシア語研究 3A	2	春	3	E3456 ロシア語研究 3B	2	秋
2	E2461 韓国語研究 1A	2	春	2	E2462 韓国語研究 1B	2	秋
2	E2463 韓国語研究 2A	2	春	2	E2464 韓国語研究 2B	2	秋
3	E3465 韓国語研究 3A	2	春	3	E3466 韓国語研究 3B	2	秋
1	E1401 英語特別研究 101	2	春	1	E1402 英語特別研究 102	2	秋
1	E1411 英語特別研究 111	2	秋	1	E1412 英語特別研究 112	2	春
1	E1413 英語特別研究 113	2	秋	1	E1414 英語特別研究 114	2	春
1	E1415 英語特別研究 115	2	秋	1	E1416 英語特別研究 116	2	春
1	E1417 英語特別研究 117	2	秋	1	E1418 英語特別研究 118	2	春
1	E1421 フランス語特別研究 111	2	秋	1	E1422 フランス語特別研究 112	2	春
1	E1431 ドイツ語特別研究 111	2	秋	1	E1432 ドイツ語特別研究 112	2	春
2	E2445 スペイン語特別研究 111	2	春	2	E2446 スペイン語特別研究 112	2	秋
1	E1451 中国語特別研究 111	2	秋	1	E1452 中国語特別研究 112	2	春
1	E1461 韓国語特別研究 111	2	秋	1	E1462 韓国語特別研究 112	2	春

4. 西洋古典語研究

・以下は「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bおよび「初習語」1A・B、2A・Bの単位の修得・未修得に関わりなく履修できる。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1301 ギリシア語研究 A	2	春	1	E1302 ギリシア語研究 B	2	秋
1	E1311 ラテン語研究 A	2	春	1	E1312 ラテン語研究 B	2	秋

5. 留学生関連科目

- ・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。
- ・留学生の履修については、別途がイデックス等の説明を参照し、その指導に従うこと。
- ・「日本語研究」3A・3Bは、2年次生でも白金校舎での履修が可能である。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1501 日本の歴史と文化 A	2	春	1	E1502 日本の歴史と文化 B	2	秋
1	E1511 日本の社会と政治経済 A	2	春	1	E1512 日本の社会と政治経済 B	2	秋
1	E1521 日本の科学と技術 A	2	春	1	E1522 日本の科学と技術 B	2	秋
2	E2541 日本語研究 1A	2	春	2	E2542 日本語研究 1B	2	秋
2	E2543 日本語研究 2A	2	春	2	E2544 日本語研究 2B	2	秋
2	E2545 日本語研究 3A	2	春	2	E2546 日本語研究 3B	2	秋

6. 「異文化コミュニケーション研究」

- ・以下の科目は、上記5の留学生科目のうち、「日本の歴史と文化」A・B、「日本の社会と政治経済」A・Bおよび「日本の科学と技術」A・Bにおいて、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。
- ・この科目の履修資格と履修上の要件については、シラバスを参照すること。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1531 異文化コミュニケーション研究 A	2	春	1	E1532 異文化コミュニケーション研究 B	2	秋

7. 情報処理関連科目

・以下はコンピュータリテラシー1および2の発展的学修科目である。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1601 コンピュータリテラシー研究 1A	2	春	1	E1602 コンピュータリテラシー研究 1B	2	秋
1	E1603 コンピュータリテラシー研究 2A	2	春	1	E1604 コンピュータリテラシー研究 2B	2	秋

8. 自然科学関連科目

- ・以下は自然科学の方法論を学ぶための科目であり、履修者による実験を中心に授業が行われる。
- ・履修に際しては、シラバスを参照すること。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1701 物理学方法論 A	2	春	1	E1702 物理学方法論 B	2	秋
1	E1711 化学方法論 A	2	春	1	E1712 化学方法論 B	2	秋
1	E1721 生物学方法論 A	2	春	1	E1722 生物学方法論 B	2	秋

9. 健康・スポーツ科学関連科目

- ・学期中に開講される学内実習（1A、2A、3A）と長期休暇期間中に開講される学外実習（1B、2B、3B）とをセットで履修する科目である。
- ・履修に際しては、シラバス、『明治学院共通科目 健康・スポーツ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1801 シーズンスポーツ研究 1A	2	春	1	E1802 シーズンスポーツ研究 1B	2	春
1	E1803 シーズンスポーツ研究 2A	2	春	1	E1804 シーズンスポーツ研究 2B	2	春
1	E1805 シーズンスポーツ研究 3A	2	秋	1	E1806 シーズンスポーツ研究 3B	2	秋

10. 総合教育関連科目

- ・「教養原論」A・Bは学問諸分野の基礎的な技能を習得するための演習的科目である。
- ・「ワークキャンプ」A・Bは実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。
- ・履修に際しては、シラバスを参照すること。
- ・「ボランティア実習」101・201は夏季集中で行われる実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態については特別な条件が付されている。
- ・「ボランティア特別研究」101～202は「ボランティア実習」101・201の事前研修を行う科目である。
- ・「アカデミックリテラシー研究」はレポート・論文書法のための演習的科目である。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1901 教養原論 A	2	春	1	E1902 教養原論 B	2	秋
1	E1911 野外地域研究 A	2		1	E1912 野外地域研究 B	2	
1	E1921 ワークキャンプ A	2		1	E1922 ワークキャンプ B	2	
2	E2931 ボランティア実習 101	2		2	E2932 ボランティア実習 201	2	
1	E1941 ボランティア特別研究 101	2	秋	2	E2942 ボランティア特別研究 102	2	春
1	E1943 ボランティア特別研究 201	2	秋	2	E2944 ボランティア特別研究 202	2	春
1	E1951 アカデミックリテラシー研究 1	2	春または秋	1	E1952 アカデミックリテラシー研究 2	2	春または秋
1	E1953 アカデミックリテラシー研究 3	2	春または秋				

11. 特別学科科目

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	社会学概論 A	2	春	1	社会学概論 B	2	秋
3	内なる国際化論 A	2	春	3	内なる国際化論 B	2	秋

12. 短期留学認定科目

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。

配当年次	科目名	単位数	配当年次	科目名	単位数
1	E1999 ｲﾀﾘｱ研究 (短期留学)	4	1	E1999 ｲｷﾞﾘｽ研究 (短期留学)	4
1	E1999 ﾖｰﾛｯﾊﾟ 研究 (短期留学)	4	1	E1999 ﾏﾞﾏﾘｶ研究 (短期留学)	4
1	E1999 韓国研究 (短期留学)	4	1	E1999 ﾍﾟｲﾝ研究 (短期留学)	4
1	E1999 ｷﾞｼﾞ研究 (短期留学)	4	1	E1999 中国研究 (短期留学)	4
1	E1999 ﾉｰｲ研究 (短期留学)	4	1	E1999 ﾉﾗﾝｽ研究 (短期留学)	4

13. 海外インターンシップ 関連科目

- ・以下は、海外インターンシップに参加した学生が、単位を修得することができる科目である。
- ・インターンシップ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。
- ・これらの科目はP・F評価となるため、GPAには含まれません。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	E1961 海外インターンシップ 課題研究 A	2	春または秋	1	E1962 海外インターンシップ 課題研究 B	2	春または秋
1	E1963 海外インターンシップ A	4	春または秋	1	E1964 海外インターンシップ B	4	春または秋

[H 群科目]

2年次または3年次配当の発展的科目。演習形式を中心とする。

※A・Bは独立した科目であるが、同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時限に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。

※「リサーチ&プレゼンテーション」はそれぞれボランティア実習、短期留学、長期留学を目指す学生のために、実習、留学で特に力を入れた点について特化して学習するプログラムである。留学・実習時期によってはAを秋学期、Bを春学期に開講することもある。履修に関しては担当教員の許可を得ることが必要である。

配当年次	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目名	単位数	開講学期
2	H2011 リサーチ&プレゼンテーション 1A 注1	2	春	2	H2012 リサーチ&プレゼンテーション 1B 注1	2	秋
2	H2021 リサーチ&プレゼンテーション 2A 注2	2	春	2	H2022 リサーチ&プレゼンテーション 2B 注2	2	秋
2	H2031 リサーチ&プレゼンテーション 3A 注3	2	春	2	H2032 リサーチ&プレゼンテーション 3B 注3	2	秋
2	H2041 リサーチ&プレゼンテーション 4A 注4	2	春	2	H2042 リサーチ&プレゼンテーション 4B 注4	2	秋
2	H2051 リサーチ&プレゼンテーション 5A 注5	2	春	2	H2052 リサーチ&プレゼンテーション 5B 注5	2	秋
3	H3011 アジア・日本研究 A 注6	2	春	3	H3012 アジア・日本研究 B 注6	2	秋
3	H3021 ヨーロッパ文化圏研究 A 注6	2	春	3	H3022 ヨーロッパ文化圏研究 B 注6	2	秋
3	H3031 現代科学研究 A 注6	2	春	3	H3032 現代科学研究 B 注6	2	秋

注1：国内ボランティア実習事前事後研修

注2：海外ボランティア実習事前事後研修

注3：アジア言語圏留学事前事後研修

注4：ヨーロッパ言語圏留学事前事後研修

注5：英語圏留学事前事後研修

注6：履修に際しては、『明治学院大学 学修の指針』を参照のこと。

[I 群科目]

英語で行われる科目。本学の交換留学生と一緒に学ぶ科目である。

配当年次	科目名	単位数	開講学期
1	I1101～I1106 Japanese Arts and Culture1～6	2	春・秋
1	I1111～I1116 Japanese History1～6	2	春・秋
1	I1121～I1126 Japanese Society1～6	2	春・秋
1	I1131～I1134 Multilingualism and Multiculturalism1～4	2	春・秋
1	I1141～I1144 Current Issues1～4	2	春・秋

※履修定員が設定される。

※履修に際しては一定の英語力が必要とされる。

※シラスを熟読の上、必ず最初の授業に出席して担当教員から履修の許可を得ること。

英文学科

英 文 学 科

(履修の方法)

指導の方針——英語の言語学的研究と、英・米文学および文化的背景の研究に対する学生の欲求に応えられるよう、十分な授業科目を用意配当している。教室以外における図書館やオンライン学習での勉学をも奨励している。

1・2年次においては、主に読解力・作文力・聴解力・発表能力の増強に力点を置く。併せて、初習外国語を含む明治学院共通科目を多岐にわたって履修し、幅広く人間性を形成するとともに、情報化社会に対処しうる国際感覚を身につけることができるよう、カリキュラムを編成している。学生は主体的に自分の将来の希望・進路に応じて多彩な講義を聴き、知的能力を延ばしつつ、専門課程に至る準備としての学識を修得することになる。

3・4年次においては、コース科目を中心として専門化された諸々の講義に接し、自分の専攻分野に関する研究方法を会得し、参考文献に通曉し、以て高度の専門知識を探究してゆくことになる。併せて、将来のキャリアにつながる多様な英語運用能力をみがくことができるようカリキュラムを用意している。

〔1〕卒業までに必要な単位数

		部 門	卒業に必要な単位数	
明 治 学 院 共 通 科 目	必 修	C群 キリスト教基本科目「キリスト教の基礎 A・B」	2科目4単位	計 38 単位
		C群 初習語：英語以外の外国語基本科目（注1）	4科目4単位	
		E群 初習語：英語以外の外国語研究科目（注2）	2科目4単位	
		C群 情報処理基本科目 「コンピュータリテラシー1・2」のいずれか 1科目（注3）	1科目2単位	
	選 択		24 単位	
学 科 科 目	必 修	※を付した科目 〔6〕学科科目の項を参照すること。	21科目28単位	計 92 単位
	コース必修	所属コースの「〇〇概論A・B」（注4）	2科目4単位	
		所属コースの「Topics in 〇〇A・B」（注5）	2科目4単位	
	選 択 必 修	所属コースの「3年次演習」・「4年次演習」または 「英語教育3年次演習」・「英語教育4年次演習」 （注6）	2科目4単位	
	選 択	★所属コース科目（注7）	6科目12単位	
		★所属コース以外の科目、 文学部共通科目	40 単位	
		★所定の文学部他学科の学科科目および教職に 関する科目「英語科教育研究1・2・3・4」 ※卒業要件として認められる単位数は、16 単位 以下に限る。		
合 計			130 単位	

- (注1) 外国語の必修科目として、C群1年次配当の初習語
〔フランス語・中国語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・韓国語〕の中から1言語を選択し、「〇〇語1A・1B、2A・2B」の4科目4単位を修得する必要がある。
- (注2) C群初習語と同一の言語のE群2年次配当「〇〇語研究1A・1B・2A・2B」のうち2科目4単位を修得すること。
- (注3) 「コンピュータリテラシー研究1A・1B・2A・2B」のうち1科目2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることもできる。
上記必修2単位よりも多く修得した場合、超過分の単位は明治学院共通科目の選択科目24単位に含まれる。
- (注4) 所属コース以外の「〇〇概論A・B」を修得した場合、その単位は学科科目の選択科目（**所属コース以外の科目**）40単位に含まれる。
- (注5) 所属コースの「Topics in 〇〇A・B」を複数回修得した場合、もしくは所属コース以外の「Topics in 〇〇A・B」を修得した場合、その単位は学科科目の選択科目（**所属コース以外の科目**）40単位に含まれる。
- (注6) 所属コース選択時に「英語教員養成プログラム」の履修希望を出した学生については、所属コースの「3年次演習」「4年次演習」の代わりに「英語教育3年次演習」「英語教育4年次演習」を選択することができる。
- (注7) 所属コース科目を12単位よりも多く修得した場合、超過分の単位は学科科目の選択科目（**所属コース以外の科目**）40単位に含まれる。

〔2〕年間履修制限単位数等について

- ・英文学科において1年間に履修できる単位数は、49単位とする（「教職に関する科目」に限り、16単位までの超過履修を認める）。ただし、「TESOL Seminar（短期留学）」の単位は、この中に含まない。
- ・「学科科目」の「イギリス文学コース科目」、「アメリカ文学コース科目」、「英語学コース科目」、「関連科目」の諸科目は、担当教員の異なる限り、複数回履修できる。そのほかは、特に指定された科目を除き、同一授業科目を重複履修することはできない。
- ・転学科の学生および編入学生の履修方法は個々の事情により異なるので、年度初めに教務課の指導を必ず受けること。特に、転学科生の場合、新学科では転学科をしたことによる履修における特別な処置を約束するものではないことを承知しておくこと。従って、場合によっては、4年間では卒業できないこと、白金校舎と横浜校舎両方の科目の履修の必要から自分の希望するような履修ができないこと、などが起こり得る。

〔3〕履修中止除外科目について

「学修の手引き」1213ページ記載の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目（a）～（g）のうち、（g）各学科において定めている履修中止の申請ができない科目は以下のとおりである。

イギリス文学概論A・B	アメリカ文学概論A・B	英語学概論A・B
Topics in British Culture A・B	Topics in American Culture A・B	Topics in Linguistics A・B

〔4〕再試験

卒業年次生のうち、卒業に必要な単位数を学科科目1科目（卒業論文は除く）の範囲内で満たすことができなかった学生につき、当該年度のD評価の科目を対象として再試験の機会を設ける場合がある。該当者の発表は3月の卒業生発表と同時にを行い、試験は3月に実施する。ただし、9月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔5〕明治学院共通科目

『明治学院共通科目履修の方法』を参照のこと。

〔6〕学科科目

英文学科の学生は、3年次から「イギリス文学コース」、「アメリカ文学コース」、「英語学コース」のいずれかに所属する。各コースに所属するためには、2年次にそのコースの概論（「イギリス文学概論A・B」、「アメリカ文学概論A・B」、または「英語学概論A・B」）の単位を修得しているか、3年次以降に修得する必要がある。

各コースに所属の学生は、3・4年次で、「Topics in～ A・B」、「～3年次演習」、「～4年次演習」のうち、所属するコースのものが選択必修となる（ただし「英語教員養成プログラム」を履修する学生は「〔7〕英語教員養成プログラム」の履修モデルを参照のこと）。さらに、所属するコースの選択科目から12単位以上を修得しなければならない。また、卒業論文を選択する場合、原則として所属コースの教員の指導のもとで作成する。

自分の所属するコース以外の科目も履修でき、卒業単位数に数えられる。

なお4年次でコースを変更することはできるが、そのコースの概論（「イギリス文学概論A・B」、「アメリカ文学概論A・B」、または「英語学概論A・B」）の2科目4単位を卒業までに修得しなければならない。また学生は、3年次にそのコースの演習の単位を修得していない場合には、4年次に3年次の演習をも履修することになる。コース変更する前に修得した「～演習」の単位は、卒業要件に含まれない。

また、卒業に必要な学科科目選択52単位の中に、次のフランス文学科、芸術学科の学科科目及び教職に関する科目を16単位まで含めることができる。履修条件が付されている場合があるので、履修の際は各学科の項を参照すること。

フランス文学科： フランス語講読1 A・B、フランス語講読2 A・B、~~白金校舎開講の~~基礎研究A・B、~~白金校舎開講の~~フランス語表現法1 A・B、3年次演習、4年次演習、卒業論文を除く学科科目。

芸術学科： 映像芸術学序説P・S、映像文化研究、映画史特講1 A・B、デジタルアート論A・B、メディア実践論A・B、デザイン論A・B、芸術メディア論特講1 A・B、芸術メディア論特講2 A・B、舞台芸術論A・B、バレエ研究A・B、思想と芸術A・B、現代社会と芸術1 A・B、現代社会と芸術2 A・B、現代社会と芸術3 A・B、芸術表現論、アートマネジメント論

教職に関する科目：英語科教育研究1・2・3・4

「英語科教育研究1・2」、「英語科教育研究3・4」は、それぞれの組み合わせについて同一曜時限・同一教員の春・秋学期開講科目を合わせて履修すること。

A・Bに分割された科目が必修科目や選択必修科目である場合は、当然A・Bの両方を履修しなければならない。
 また、履修について特別の規定がある場合には、それに従わなければならない。
 これ以外の場合でも、内容的には通年で完結するものなので、A・Bを連続して履修することが望ましい。

※印は必修科目、○印はコース必修科目、◇印は選択必修科目とする。

1年次				2年次			
科目名	単位	開講		科目名	単位	開講	
学科基礎科目				学科基礎科目（注2）			
※ イギリス文学入門	2	学期		○ イギリス文学概論 A・B	2・2	学期	
※ アメリカ文学入門	2	学期		○ アメリカ文学概論 A・B	2・2	学期	
※ 英語学入門	2	学期		○ 英語学概論 A・B	2・2	学期	
英語基礎科目				英語基礎科目			
※ 基礎演習 1	2	通年		※ 基礎演習 2	2	通年	
※ Reading A・B	1・1	学期		※ Academic Reading A・B	1・1	学期	
※ 英文法 A・B	1・1	学期		※ Academic Writing A・B	1・1	学期	
※ Writing A・B	1・1	学期		※ Listening and Speaking A・B	1・1	学期	
※ Listening and Pronunciation A・B	1・1	学期		英語教育科目（注3）			
英語発展科目 A群 （注1）				英語教育基礎論 A・B			
英語文章読解法 A・B	2・2	学期		TESOL Seminar (短期留学) (注4)	2	集中	
英語文章作成法 A・B	2・2	学期		文学部共通科目 （注4-5）			
英語オーラルコミュニケーション A・B (注1)	2・2	学期		異文化理解 1	2	学期	
他学部配当科目				異文化理解 2			
英語発展科目 A群 (注5-6)							
KC2129 Current Affairs A	2	学期					
KC2130 Current Affairs B	2	学期					

- (注1) ~~英語文章読解法B・英語文章作成法B~~・英語オーラルコミュニケーションBの履修は英語文章読解法A・英語文章作成法A・英語オーラルコミュニケーションAを履修していることが前提である。従って、「B」の履修は前年度までに「A」の単位を修得しているか、今年度に「A・B」の両方を履修する場合にのみ可能である。
- (注2) 学生は、イギリス文学概論A・B、アメリカ文学概論A・B、英語学概論A・Bの6科目のうちの各自の希望コースの概論A・B2科目は必修科目であるので、必ず修得しなければならない。3科目以上履修した場合に、3科目めからの単位は、学科科目の選択~~（注1）~~の科目（所属コース以外の科目）40単位に算入される。
- (注3) 「英語教員養成プログラム」の修了を目指す学生は、これらの科目から16単位以上修得すること。
- (注4) 「TESOL Seminar (短期留学)」は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。詳細は、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。また、この科目は年間履修単位数の上限には含まれない。
- ~~（注4-5）「異文化理解1・2」は、横浜校舎では外国人教員が担当する。~~
- (注5-6) KC2129 Current Affairs A、KC2130 Current Affairs Bは他学部配当科目である。

○印と◇印 (Topics in～・演習) は、選択科目のうち所属コース科目で修得すべき12単位には含まれないので注意すること。

3年次						
科 目 名	単 位	開 講	科 目 名	単 位	開 講	
イギリス文学コース科目 (注6-7)			関連科目 (注6-7)			
イギリス詩 A・B	2・2	学期	英米宗教文学 A・B	2・2	学期	
イギリス小説 A・B	2・2	学期	英語聖書 A・B	2・2	学期	
イギリス演劇 A・B	2・2	学期	英米児童文学 A・B	2・2	学期	
イギリス文学史 A・B	2・2	学期	イギリス研究 A・B	2・2	学期	
イギリス文学批評 A・B	2・2	学期	アメリカ研究 A・B	2・2	学期	
イギリス文学特講 A・B	2・2	学期	Intercultural Communication A・B	2・2	学期	
イギリス文化研究 A・B	2・2	学期	英語発展科目 B群			
○ Topics in British Culture A・B (注7-8)	2・2	学期	Business English A・B	2・2	学期	
◇ イギリス文学3年次演習 (注8-9)	2	通年	翻訳技法 A・B	2・2	学期	
アメリカ文学コース科目 (注6-7)			通訳技法 A・B			
アメリカ詩 A・B	2・2	学期	※Academic English Skills A・B (注9-10)	2・2	学期	
アメリカ小説 A・B	2・2	学期	Advanced Academic Writing (注1011)	2	学期	
アメリカ演劇 A・B	2・2	学期	英語教育科目 (注3)			
アメリカ文学史 A・B	2・2	学期	英語教育方法論 A・B	2・2	学期	
アメリカ文学批評 A・B	2・2	学期	英語教育実践論 A・B	2・2	学期	
アメリカ文学特講 A・B	2・2	学期	英語教育評価論 A・B	2・2	学期	
アメリカ文化研究 A・B	2・2	学期	Current Topics in ELT A・B	2・2	学期	
○ Topics in American Culture A・B (注7-8)	2・2	学期	◇ 英語教育3年次演習 (注8-9)	2	通年	
◇ アメリカ文学3年次演習 (注8-9)	2	通年				
英語学コース科目 (注6-7)						
音声学 A・B	2・2	学期				
英語史 A・B	2・2	学期				
音韻論 A・B	2・2	学期				
統語論 A・B	2・2	学期				
意味論 A・B	2・2	学期				
語用論 A・B	2・2	学期				
社会言語学 A・B	2・2	学期				
心理言語学 A・B	2・2	学期				
英語学特講 A・B	2・2	学期				
○ Topics in Linguistics A・B (注7-8)	2・2	学期				
◇ 英語学3年次演習 (注8-9)	2	通年				

(注6-7) 「イギリス文学コース科目」、「アメリカ文学コース科目」、「英語学コース科目」、「関連科目」の諸科目は、同一科目であっても担当教員が異なる場合に限り複数回履修でき(同一教員による同一科目は1回しか単位修得できない)、卒業単位数に数えられる(所属コース科目であれば所属コース科目の12単位に含められる)。

(注7-8) Topics in British Culture A・B、Topics in American Culture A・B、Topics in Linguistics A・B の6科目のうち、2科目(同一コースのA・B)は、各コースに所属する学生にとっては必修科目である。3科目以上履修した場合は、学科科目の選択(+)科目(所属コース以外の科目)40単位に算入される。但し、所属コース科目で修得すべき12単位には含まない。

(注8-9) 3年次演習の履修手続きは前年度の11月から12月にかけて行う。原則として志望を尊重してクラス分けをする。クラス履修者は原則として2015名を限度とする。3年次、4年次の演習科目(「イギリス文学3・4年次演習」、「アメリカ文学3・4年次演習」、「英語学3・4年次演習」、「英語教育3・4年次演習」)は、学生の希望するクラスの所属学生数が過大でない場合に、複数回履修できる。(ただし卒業要件単位としては認められない。)これを希望する学生は、担当教員の面接を受け許可を得なければならない(通常の必修科目としての履修の場合には、面接は行わない)。その場合、4年次の学生が3年次の演習を履修することもできる。

(注9-10) Academic English Skills A・B(必修:A・B各2単位)の履修手続きは学生各自が春学期履修登録時に行う。登録の際、学科及び教務課からの掲示に注意し確認すること。クラス履修者は原則25名を限度とし、履修者数が過大でなく担当教員が異なる場合にかぎり複数回履修できる。複数回履修の上限は、3年次から卒業年次においてA・B6単位ずつとし卒業要件の選択(+)科目(所属コース以外の科目)40単位に含めることができる。再履修や複数回履修の可能なクラスについては、履修登録直前の3月以降**英文学科教務課**からの掲示をPort Hepburn等で確認し、初回授業で担当教員の許可を得ること。

3年次(つづき)			4年次		
科目名	単位	開講	科目名	単位	開講
文学部共通科目			イギリス文学コース科目		
日本文学(専)A・B	2・2	学期	◇ イギリス文学4年次演習 (注8-139・14)	2	通年
中国文学A・B	2・2	学期	アメリカ文学コース科目		
ドイツ文学A・B	2・2	学期	◇ アメリカ文学4年次演習 (注8-139・14)	2	通年
西洋文学A・B	2・2	学期	英語学コース科目		
異文化理解3・4	2・2	学期	◇ 英語学4年次演習 (注8-139・14)	2	通年
哲学(専)1・2 (注112)	2・2	学期	英語教育科目(注3)		
言語学A・B	2・2	学期	◇ 英語教育4年次演習 (注8-139・14)	2	通年
ギリシア語1A・B (2018年度より廃止)	2・2	学期	卒業論文		
ギリシア語2A・B (2018年度より廃止)	2・2	学期	卒業論文 (注10-1411・15)	6	通年
ラテン語1A・B (注1213)	2・2	学期			
ラテン語2A・B	2・2	学期			
小説技法A・B	2・2	学期			
翻訳論A・B	2・2	学期			
Practical Career English A・B	2・2	学期			
文化史A・B	2・2	学期			
民俗学A・B	2・2	学期			
Practical Career English (2018年度より廃止)	2	学期			

- (注1011) 卒業論文を執筆する者は、Advanced Academic Writingを履修することが望ましい。
- (注112) 哲学(専)1・2を履修するためには、明治学院共通科目の「MGPHI」(哲学)、「MGETH」(倫理学)、「MGLOG」(論理学)の科目中から、ナンバリングのアルファベットが同一名称の2科目(計4単位)を修得済みでなければならない。
- (注1213) 明治学院共通科目の「ラテン語研究A・B」を修得した者は、文学部共通科目「ラテン語1A・B」を履修できない。
- (注1314) 4年次演習は卒業論文の指導を行わず、テキストの演習を主とする。履修手続きは前年度の11月から12月にかけて行う。原則として志望を尊重してクラス分けをする。クラス履修者は原則として15名を限度とする。なお3年生の秋学期から、1年間認定留学をする者については、3年次演習の履修手続きを行う際に、4年次演習の履修手続きも合わせて行い、留学前に3・4年次演習の春学期分を、留学後に秋学期分を履修して所定の単位を修得すること。
- (注1415) 卒業論文について(次頁参照)

(注1415) 卒業論文について

- イ. 卒業論文は選択・許可制であるが、当該年度春学期に、
- 1) 自分の書こうとするテーマについて適当な指導教員を訪ね、許可を受けること。
 - 2) 所定の卒業論文執筆申込用紙に必要事項を記入し、英文学科共同研究室に提出すること。提出期間は、Port Hepburn の掲示を確認すること。
 - 3) 卒業論文の履修登録は、1)、2)の手続きを済ませた者に対して、教務課で登録を行う。
- ロ. 3年生の秋学期、または4年生の秋学期から1年間認定留学をする者についての取扱い。
- 1) 原則として、留学開始前の春学期履修登録期間に登録すること。
 - 2) 留学中に意思が変わり履修希望となった場合、指導教員の許可を得た上で、春学期履修登録期間に速やかに英文学科共同研究室にメール (english@ltr.meijigakuin.ac.jp) し、学科主任の承諾を得ること。
 - 3) 2)の承諾を得た後、教務課にて登録を行う。留学中である春学期間中は遠隔指導となる。
 - 4) 一度履修登録した場合、履修削除・履修中止は一切認められない。
- ハ. 卒業論文の指導は本学の専任教員がこれに当たり、卒業論文のためのクラスは特に設けないので、学生は各自研究室を訪ね、指導・助言を受けることになる。

ニ. 卒業論文の審査は、指導教員が行う。評価項目と評価基準を以下に示す。

1) 「論文」については、以下の項目を総合的に評価する。

- ・論文としての構成・体裁が整っているか。
- ・研究の焦点が定まっていて、研究内容が具体的に示されているか。
- ・研究の結果は適切な資料やデータに裏付けられているか。
- ・研究の意義・成果は簡潔にまとめられているか。
- ・論文としての独創性が認められるか。
- ・文章は用語・文法表現などが適切で、論理的に書かれているか。
- ・文献などの引用は適切で、的確に標記されているか。

2) 「研究プロセス」については、以下の項目を総合的に評価する。

- ・研究課題に対する理解度
- ・研究の計画性と実行能力
- ・研究に対する取り組み姿勢

ニ. 卒業論文の審査は、指導教員が行う。

ホ. 論文作成上の注意

- 1) すべて英語で書くこと（手書き不可）。
 - 2) ファイル（大学生協で販売）・表紙（教務課で配布）は大学指定のものを使用し、用紙はA4版。
 - 3) フォントサイズは11～12ポイントで、行数は1ページにつき25行に指定する。本文のみで30枚以上50枚以下にまとめること。ただし、作品原文の引用は論文全体の3分の1を越えてはならない。
- ヘ. 疑問点、詳細については指導教員および英文学科共同研究室に相談すること。
- ト. 在学5年目以上の学生が、下記条件を満たしている場合、9月卒業の申請科目に「卒業論文」を含めることができる。この場合履修手続きは、4月となる。
- 1) 前年度までに得た「卒業論文」の評価が「D」（提出したが不合格）であること。
 - 2) 卒業希望年度に「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
 - 3) 卒論指導担当者（それが不可能な場合は学科主任）から、9月卒業を前提とした卒業論文履修者として、履修の許可を得ていること。
- * 申請者は、卒業論文を7月第一火又は水曜日に教務課へ提出し、審査の上合格した場合、春学期末に単位を修得できる。
 - * 上記期日までに未提出又は審査が不合格の場合、一般学生と同じ1月の期日に改めて提出することができる。
 - * 希望者は、教務課指定の履修許可書に卒業論文指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類とあわせて教務課に提出すること。

〔7〕英語教員養成プログラム

英語教員を志望する英文学科の学生は、所属コースの別なく、希望により「英語教員養成プログラム」の科目を履修することができます。また「英語教育科目(英語教育基礎論・方法論・実践論・評価論、Current Topics in ELT、TESOL Seminar(短期留学)および英語教育3・4年次演習)」から16単位以上修得することにより、プログラム修了の認定が受けられます。

所属コースごとの履修モデルは下記1)~3)の通りです。

1) イギリス文学コース(英語教員養成プログラム)の履修モデル

コース必修・選択必修科目	選択(1)~(2) 学科科目の選択科目 (52単位)
<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文学入門(2単位) ・イギリス文学概論A・B(4単位) ・Topics in British Culture A・B(4単位) ・イギリス文学3年次演習(2単位)※ ・イギリス文学4年次演習(2単位)※ 	<ul style="list-style-type: none"> ■イギリス文学コース科目(12単位以上) ・イギリス詩A・B ・イギリス小説A・B ・イギリス演劇A・B ・イギリス文学史A・B ・イギリス文学批評A・B ・イギリス文学特講A・B ・イギリス文化研究A・B
	<ul style="list-style-type: none"> ■英語教育科目(16単位以上)※ ■学科科目 ■他学科科目[英語科教育研究1・2・3・4(8単位)を含めることも可能]

(※) 英語教育科目(16単位以上)に「英語教育3・4年次演習(4単位)」が含まれる場合には、「イギリス文学3・4年次演習(4単位)」に代えて「卒業までに必要な単位数」としてカウントすることができる。

2) アメリカ文学コース(英語教員養成プログラム)の履修モデル

コース必修・選択必修科目	選択(1)~(2) 学科科目の選択科目 (52単位)
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ文学入門(2単位) ・アメリカ文学概論A・B(4単位) ・Topics in American Culture A・B(4単位) ・アメリカ文学3年次演習(2単位)※ ・アメリカ文学4年次演習(2単位)※ 	<ul style="list-style-type: none"> ■アメリカ文学コース科目(12単位以上) ・アメリカ詩A・B ・アメリカ小説A・B ・アメリカ演劇A・B ・アメリカ文学史A・B ・アメリカ文学批評A・B ・アメリカ文学特講A・B ・アメリカ文化研究A・B
	<ul style="list-style-type: none"> ■英語教育科目(16単位以上)※ ■学科科目 ■他学科科目[英語科教育研究1・2・3・4(8単位)を含めることも可能]

(※) 英語教育科目(16単位以上)に「英語教育3・4年次演習(4単位)」が含まれる場合には、「アメリカ文学3・4年次演習(4単位)」に代えて「卒業までに必要な単位数」としてカウントすることができる。

3) 英語学コース(英語教員養成プログラム)の履修モデル

コース必修・選択必修科目	選択(1)~(2) 学科科目の選択科目 (52単位)
<ul style="list-style-type: none"> ・英語学入門(2単位) ・英語学概論A・B(4単位) ・Topics in Linguistics A・B(4単位) ・英語学3年次演習(2単位)※ ・英語学4年次演習(2単位)※ 	<ul style="list-style-type: none"> ■英語学コース科目(12単位以上) ・音声学A・B ・英語史A・B ・音韻論A・B ・統語論A・B ・意味論A・B ・語用論A・B

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会言語学 A・B ・心理言語学 A・B ・英語学特講 A・B
	<ul style="list-style-type: none"> ■英語教育科目(16単位以上)※ ■学科科目 ■他学科科目[英語科教育研究 1・2・3・4 (8単位)を含めることも可能]

(※) 英語教育科目 (16 単位以上) に「英語教育 3・4 年次演習 (4 単位)」が含まれる場合には、「英語学 3・4 年次演習 (4 単位)」 に代えて「卒業までに必要な単位数」としてカウントすることができる。

なお、「英語教員養成プログラム」の履修登録は、3 年次演習の履修手続きの際に、「イギリス文学」「アメリカ文学」「英語学」3 コースから 1 コースを選択すると同時に「英語教員養成プログラム」履修希望の有無を記入することによって行われます。

また、「希望有り」の学生は、選んだコースとは関係なく 2 つの「英語教育」ゼミを 5 つの希望の中に入れて申告することができます。

英文学科学科科目一覧

学科基礎科目				学科基礎科目			
単位	開講	年次		単位	開講	年次	
※	イギリス文学入門	2	学期 1	○	イギリス文学概論A・B	2・2	学期 2
※	アメリカ文学入門	2	学期 1	○	アメリカ文学概論A・B	2・2	学期 2
※	英語学入門	2	学期 1	○	英語学概論A・B	2・2	学期 2
英語基礎科目				英語基礎科目			
※	基礎演習 1	2	通年 1	※	WritingA・B	1・1	学期 1
※	基礎演習 2	2	通年 2	※	Academic WritingA・B	1・1	学期 2
※	ReadingA・B	1・1	学期 1	※	Listening and PronunciationA・B	1・1	学期 1
※	Academic ReadingA・B	1・1	学期 2	※	Listening and SpeakingA・B	1・1	学期 2
※	英文法A・B	1・1	学期 1				
英語発展科目A群				英語発展科目A群			
	英語文章読解法A・B	2・2	学期 1		KC2129 Current Affairs A	2	学期 1
	英語文章作成法A・B	2・2	学期 1		KC2130 Current Affairs B	2	学期 1
	英語対話コミュニケーションA・B	2・2	学期 1				
イギリス文学コース科目				イギリス文学コース科目			
	イギリス詩A・B	2・2	学期 3		イギリス文学特講A・B	2・2	学期 3
	イギリス小説A・B	2・2	学期 3		イギリス文化研究A・B	2・2	学期 3
	イギリス演劇A・B	2・2	学期 3	○	Topics in British CultureA・B	2・2	学期 3
	イギリス文学史A・B	2・2	学期 3	◇	イギリス文学3年次演習	2	通年 3
	イギリス文学批評A・B	2・2	学期 3	◇	イギリス文学4年次演習	2	通年 4
アメリカ文学コース科目				アメリカ文学コース科目			
	アメリカ詩A・B	2・2	学期 3		アメリカ文学特講A・B	2・2	学期 3
	アメリカ小説A・B	2・2	学期 3		アメリカ文化研究A・B	2・2	学期 3
	アメリカ演劇A・B	2・2	学期 3	○	Topics in American CultureA・B	2・2	学期 3
	アメリカ文学史A・B	2・2	学期 3	◇	アメリカ文学3年次演習	2	通年 3
	アメリカ文学批評A・B	2・2	学期 3	◇	アメリカ文学4年次演習	2	通年 4
英語学コース科目				英語学コース科目			
	音声学A・B	2・2	学期 3		心理言語学A・B	2・2	学期 3
	英語史A・B	2・2	学期 3		社会言語学A・B	2・2	学期 3
	音韻論A・B	2・2	学期 3		英語学特講A・B	2・2	学期 3
	統語論A・B	2・2	学期 3	○	Topics in LinguisticsA・B	2・2	学期 3
	意味論A・B	2・2	学期 3	◇	英語学3年次演習	2	通年 3
	語用論A・B	2・2	学期 3	◇	英語学4年次演習	2	通年 4
関連科目				関連科目			
	英米宗教文学A・B	2・2	学期 3		イギリス研究A・B	2・2	学期 3
	英語聖書A・B	2・2	学期 3		アメリカ研究A・B	2・2	学期 3
	英米児童文学A・B	2・2	学期 3		Intercultural CommunicationA・B	2・2	学期 3
英語発展科目B群				英語発展科目B群			
	Business EnglishA・B	2・2	学期 3	※	Academic English SkillsA・B	2・2	学期 3
	翻訳技法A・B	2・2	学期 3		Advanced Academic Writing	2	学期 3
	通訳技法A・B	2・2	学期 3				
英語教育科目				卒業論文			
	英語教育基礎論A・B	2・2	学期 2		卒業論文	6	通年 4
	英語教育方法論A・B	2・2	学期 3				
	英語教育実践論A・B	2・2	学期 3				
	英語教育評価論A・B	2・2	学期 3				
	Current Topics in ELT A・B	2・2	学期 3				
	TESOL Seminar(短期留学)	2	集中	2			
◇	英語教育3年次演習	2	通年	3			
◇	英語教育4年次演習	2	通年	4			

※は必修科目、○はコース必修科目、◇は選択必修科目をあらわす。

文学部共通科目				文学部共通科目			
単位	開講	年次		単位	開講	年次	
日本文学(専) A・B	2・2	学期	3	ラテン語1 A・B	2・2	学期	3
中国文学 A・B	2・2	学期	3	ラテン語2 A・B	2・2	学期	3
ドイツ文学 A・B	2・2	学期	3	小説技法 A・B	2・2	学期	3
西洋文学 A・B	2・2	学期	3	翻訳論 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 1・2	2・2	学期	2	Practical Career English A・B	2・2	学期	3
異文化理解 3・4	2・2	学期	3	文化史 A・B	2・2	学期	3
哲学(専) 1・2	2・2	学期	3	民俗学 A・B	2・2	学期	3
言語学 A・B	2・2	学期	3				

文学部共通科目				文学部共通科目			
単位	開講	年次		単位	開講	年次	
日本文学(専) A・B	2・2	学期	3	ラテン語1 A・B	2・2	学期	3
中国文学 A・B	2・2	学期	3	ラテン語2 A・B	2・2	学期	3
ドイツ文学 A・B	2・2	学期	3	小説技法 A・B	2・2	学期	3
西洋文学 A・B	2・2	学期	3	翻訳論 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 1・2	2・2	学期	2	Practical Career English A・B	2・2	学期	3
異文化理解 3・4	2・2	学期	3	文化史 A・B	2・2	学期	3
哲学(専) 1・2	2・2	学期	3	民俗学 A・B	2・2	学期	3
言語学 A・B	2・2	学期	3				

フランス文学科

フランス文学科

(履修の方法)

指導の方針——フランス文学科は、次の3点を指導の眼目としている。

- (1) 現代的な方法と新鮮な感覚にもとづいて、フランス語学・文学の研究・教育を行い、的確な問題意識をつちかう。
- (2) フランス文化の多様性とその可能性を考察しつつ、豊かな創造性と批判精神を養う。
- (3) フランス文化の理解に必要なフランス語力の向上をはかり、徹底した語学教育を実践する。

[1] 卒業までに必要な単位数

部 門		単 位 群	卒 業 ま で に 必 要 な 単 位		
明治学院 共通科目 (明学科目)	キリスト教基本科目	I	4単位	計36単位	
	外国語科目	フランス語	II		12単位(注1)
		英語	III		4単位(注2)
	コンピュータリテラシー	IV	2単位(注3)		
	自由選択	V	14単位(注4)		
明学科目・学科科目より選択		VI	18単位(注5)	計18単位	
学科科目	必修科目 ○を付した科目 ※〔7〕学科科目の(1)、(2)、(4)、(5) の各項を見ること	VII	36単位	計72単位	
	選択必修科目 △：4科目4単位 ◇：8科目16単位 ※〔7〕学科科目の(2)～(3)を見ること	VIII	20単位		
	選択科目 (1) 学科科目 ※〔7〕学科科目の項参照。 (2) 文学部共通科目 (3) (1)学科科目の他に所定の文学部他学科 の学科科目、および教職に関する科目(フ ランçais語科教育研究1・2・3・4)を16単位のうち 12単位まで含めることができる。13単位 目からはVIIに数えられる。 ※〔8〕文学部他学科の学科科目と〔9〕 教職に関する科目の項を参照のこと。	IX	16単位		
合 計			126単位		

- (注1) 単位群IIの明学科目のフランス語は、「フランス語1A・B」「フランス語2A・B」(1年次配当)、「フランス語研究1A・B」「フランス語研究2A・B」(2年次配当)が必修である。
- (注2) 単位群IIIの英語は、「英語コミュニケーション1A・B」「英語コミュニケーション2A・B」が必修である。なお、必修以外のフランス語、英語、その他の外国語の単位を修得した場合には、単位群Vまたは単位群VIの単位として扱われる。詳細は30頁参照のこと。
- (注3) 単位群IVのコンピュータリテラシーは、コンピュータリテラシー1(2単位)または、コンピュータリテラシー2(2単位)のうちから、1科目(必修・2単位)を選択し、修得しなければならない。ただし、コンピュータリテラシー研究1A(2単位)、コンピュータリテラシー研究1B(2単位)、コンピュータリテラシー研究2A(2単位)、コンピュータリテラシー研究2B(2単位)から2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。
- (注4) 単位群Vの自由選択は、明学科目から修得すること。
- (注5) 単位群VIの単位は、明学科目・フランス文学科科目・文学部共通科目・文学部他学科の学科科目から自由に選択して履修できる。ただし、他学科科目については〔8〕の「文学部他学科の学科科目」の項で、「履修できない科目」に指定されているものを除く。

〔2〕超過して修得した単位の扱い

I～IXの各単位群の必要単位数を超過して修得した単位で、他の枠の単位群の単位として扱えるものは、下表のとおりである。

単位群	必要単位	超過単位の扱われる群	備 考
II	12	VまたはVI	明治学院共通科目〔E群科目〕「フランス語研究3 A・B」「特別演習フランス語A・B」「フランス語特別研究 A・B 111・112」を修得した場合。
III	4	VまたはVI	〔1〕卒業までに必要な単位数（注2）を参照
V	14	VI	
VII	36	VIまたはIX	「基礎研究A」と「基礎研究B」をそれぞれ2科目以上修得した場合の2科目からと、「3年次演習」を必修のほか選択でも修得した場合。
VIII	20	VIまたはIX	「フランス語科目」のうち選択必修科目の5科目め以上の修得単位と、「フランス学発展科目」のうち選択必修科目の9科目以上の修得単位。
IX	16	VI	

〔3〕年間履修制限単位数等について

- ・1年間に履修できる単位数の上限は、49単位とする（「教職に関する科目」に限り、16単位までの超過履修を認める）。ただし、「TESOL Seminar（短期留学）」の単位は、この中に含まない。
- ・特に指定された科目を除き、同一科目の重複履修は認められない。
- ・転学科生と編入生は、各人の事情に応じて最も適した履修計画をたてるために、年度はじめに必ず学科主任教授と面談して指導を受け、これにしたがって教務課窓口で手続きを行うこと。転学科生にしても編入生にしても、それまでの修得単位の内容によっては、4年間で卒業できないことがあり得る。また、白金校舎と横浜校舎の両方で履修する必要がある場合など、希望どおりの履修ができるとはかぎらない。いずれにしても、教務課なり主任教授によく相談し、納得のいく履修を心がけられたい。

〔4〕履修中止除外科目について

「学修の手引き」1312 ページ記載の「7. 履修中止制度」において、「履修中止ができない科目」(a)～(g)のうち、フランス文学科においては(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目はない。

※(a)必修科目に該当する基礎研究A・B及び3年次演習については、必修科目1科目に加えて選択科目1科目を履修した場合に限り、2科目のうち1科目を履修中止可とする。必修科目なので単位修得漏れに十分注意すること。

〔5〕再試験

卒業年次生のうち、卒業に必要な単位数を学科科目1科目（卒業論文は除く）の範囲内で満たすことができなかった学生につき、**当該年度のD評価**の科目を対象として再試験の機会を設ける場合がある。該当者の発表は3月の卒業生発表と同時に、試験は3月に実施する。ただし、9月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔6〕明治学院共通科目（明学科目）

『明治学院共通科目履修の方法』を参照のこと。

〔7〕学科科目

1・2年次配当科目（2年次再履修科目を除く）は横浜校舎、3・4年次配当科目および2年次再履修科目は白金校舎で履修

- ・ ○を付した科目は必修科目である。
- ・ 配当年次欄の数字1、2などは、履修可能になる年次を示す。たとえば、「3」とある科目は、3年次の配当科目であるが、「3年次演習」および「講読演習」を除き、4年次になってから履修してもよい。ただし、1年次配当科目および2年次配当科目はそれぞれ必ず配当年次に履修すること。
- ・ 学科科目（3）の中には、明学科目「フランス語研究3」として履修可能な科目もあるが、フランス文学科の学科科目（選択必修科目）として履修することが望ましい。
- ・ 「3・4年次演習」および「卒業論文」は通年科目（1年を通して講義され、年度の終わりに1回評価される）である。
- ・ A・Bを付した科目は、○印のついた必修科目を除いて、片方のみ修得することも可能な学期科目であるが、A・Bを続けて履修することが教育効果上望ましい。
- ・ △および◇を付した科目はともに**選択必修科目**である。△と◇では単位数が異なる。
- ・ △のものは「フランス語科目」におかれている。
△のついた科目の中から4科目を選択して修得すること。（たとえば、「仏会話1A」で1科目、「仏会話1B」で1科目として計算される）
- ・ ◇は「フランス学発展科目」におかれている。
三科目群（「ことばと文学」、「思想と社会」、「芸術と文化」）の区別にかかわらず、◇のついた科目のなかから、8科目を選択する。
- ・ 科目によっては、**入学時に決められたA～Dまでの学科が指定した**クラス単位で授業が行なわれる。原則として、そのクラスを変更することはできない。

（1） フランス学基礎科目 ※ ○を付した科目は必修科目である。

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
1	○フランス学概説A・B	2・2	学期	
1	○フランスの歴史A・B	2・2	学期	
1	フランス文化研究A・B	2・2	学期	(注1)
2	○フランス文学史A・B	2・2	学期	(注2)
2	○基礎研究A・B	2・2	学期	(注3)

(注1) 担当教員が異なる場合に限り2度まで修得することができる。

(注2) 「㊦フランス文学史」は白金校舎で開講される。

(注3) 複数履修できる。ただし、必修科目としての認定はA・B各1科目、計2科目のみである。2回目以降の修得単位は選択科目の扱いとなる。「㊦基礎研究」は白金校舎で開講される。

(2) フランス語科目 ※ △を付した科目は選択必修科目である。

フランス語既習者は〔10〕フランス語既習者の履修を参照すること。

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考	配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
1	○フランス語講読1 A・B	1・1	学期		3	△フランス語表現法2 A・B	1・1	学期	
1	○Exercices Pratiques 1 A・B	1・1	学期		3	△仏会話1 A・B	1・1	学期	(注7)
1	検定対策フランス語1 A・B	1・1	学期	(注1)	3	△仏会話2 A・B	1・1	学期	(注8)
1	検定対策フランス語2 A・B	1・1	学期	(注2)	3	△Exercices Pratiques 3 A・B	1・1	学期	(注9)
1	Communication niveau avancé	2	学期	(注3)	3	△Exercices Pratiques 4 A・B	1・1	学期	(注10)
2	○Exercices Pratiques 2 A・B	1・1	学期		3	△実用フランス語A・B	1・1	学期	
2	○フランス語表現法1 A・B	1・1	学期		3	△時事フランス語A・B	1・1	学期	
3	○フランス語講読2 A・B	1・1	学期		3	△観光フランス語A・B	1・1	学期	
3	検定対策フランス語3 A・B	1・1	学期	(注4)					
3	Préparation au DELF A・B	1・1	学期	(注5)					
3	Préparation au TCF A・B	1・1	学期	(注6)					

(注1) 仏語検定用フランス語演習 (5級・4級程度)。

(注2) 仏語検定用フランス語演習 (3級・準2級程度)。

(注3) 中級程度。4度まで修得することができる。

(注4) 仏語検定用フランス語演習 (準2級・2級程度)。

(注5) DELF 試験用フランス語演習 (A2 レベル程度)。

(注6) TCF 試験用フランス語演習。

(注7) 中級程度。2 A・Bとの同時履修可。

(注8) 上級程度。1 A・Bとの同時履修可。

(注9) 中級程度。4 A・Bとの同時履修可。

(注10) 上級程度。3 A・Bとの同時履修可。

(3) フランス学発展科目

いずれの科目も同一名称のものを2回履修してよい。ただし、同一名称科目の2回目の修得単位は選択科目の扱いとなる。

① ことばと文学

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
3	◇フランス語の諸相A・B	2・2	学期	
3	◇フランス語史A・B	2・2	学期	
3	◇現代翻訳論A・B	2・2	学期	
3	◇中世・ルネサンス文学A・B	2・2	学期	
3	◇17・18世紀文学A・B	2・2	学期	
3	◇近現代の文学A・B	2・2	学期	
3	◇詩と演劇A・B	2・2	学期	
3	◇小説と批評A・B	2・2	学期	
3	◇フランス学特講1 A・B	2・2	学期	

②思想と社会

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
3	◇歴史記述論A・B	2・2	学期	
3	◇フランス現代史A・B	2・2	学期	
3	◇日仏比較論A・B	2・2	学期	
3	◇フランコフォニー研究A・B	2・2	学期	
3	◇フランス社会の諸相A・B	2・2	学期	
3	◇現代思想A・B	2・2	学期	
3	◇哲学と人間A・B	2・2	学期	
3	◇精神分析入門A・B	2・2	学期	
3	◇フランス学特講2 A・B	2・2	学期	

③芸術と文化

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
3	◇現代芸術A・B	2・2	学期	
3	◇映画芸術A・B	2・2	学期	
3	◇写真芸術A・B	2・2	学期	
3	◇舞台表現論A・B	2・2	学期	
3	◇身体と芸術A・B	2・2	学期	
3	◇フランス美術A・B	2・2	学期	
3	◇表象メディア論A・B	2・2	学期	
3	◇フランスの音楽A・B	2・2	学期	
3	◇フランス学特講3 A・B	2・2	学期	

(4) 専門演習

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
3	○3年次演習	2	通年	(注10)
4	○4年次演習	2	通年	(注11)

(注10) 必修1科目のほかを選択1科目履修可。

(注11)

- ・卒業論文の指導をかねる。
- ・11月中旬に説明会、12月上旬に所属を決定する。
- ・提出される志望動機書をもとに所属の決定を行うが、動機内容やクラス人数によっては希望にそえないこともある。

<3年次演習>

- ・11月上旬に説明会、中旬から下旬にかけて所属を決定する。
- ・第一次募集分については可能なかぎり希望にそった所属の決定を行う。
- ・第二次募集分については、第一次募集決定後、定員に余裕のあるクラスについて募集する。

<4年次演習>

- ・11月中旬に説明会、12月上旬に所属を決定する。
- ・提出される志望動機書をもとに所属の決定を行うが、動機内容やクラス人数によっては希望にそえないこともある。

(5) 卒業論文

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
4	○卒業論文	6	通年	(注12)

(注12) 4年次演習担当教員が指導教授となる。

- ・卒業論文は、フランスの文学、思想、言語、芸術、文化、歴史に関わるものを対象とする。
- ・指導教員と相談して論文題目を設定し、6月中の別に定める期日までに、所定の用紙でフランス文学科共同研究室に提出すること。
- ・提出した題目は原則として変更できない。万一変更する場合は、必ず指導教員と相談し、許可を得なければならない。無許可で変更すると失格になることがある。
- ・指導教員の指導、助言を受けながら、論文を作成すること。
- ・論文は指定日時に教務課窓口へ提出すること。(学歴参照)
- ・提出締め切り時間はきわめて厳格であるから、十分に注意すること。
- ・提出論文について、所定の口頭試問を受けなければならない。

論文作成上の注意

- (1) 使用言語は日本語またはフランス語による。英語など他言語による場合は、指導教員に相談すること。
- (2) 日本語で手書きの場合は縦書き、横書きを問わず400字詰原稿用紙を用い、本文〔序論・本論・結論〕を12,000字(30枚)以上、ワープロ使用の場合は、縦書・横書ともにA4判で、12,000字以上になるように字数を計算した上で、読みやすい形式で書くこと。その際、1ページあたりx字×y行を本文最終ページに必ず記すこと。フランス語の場合は、A4版一枚あたり25行を目安とする。詳細は担当教員に相談すること。
- (3) 本文のほかに、参考文献表・注・要約(résumé)をつけなければならない。要約は、日本語による論文の場合はフランス語で書くこと。A4版用紙を用い、1枚25行を目安として2枚半程度、フランス語による論文の場合は、日本語で2000字程度にまとめること。
- (4) 論文には指定の表紙をつけ、所定の欄に、題目・学籍番号と氏名・指導教員名などを記入すること。
- (5) 書式その他の注意事項の詳細は、5月に4年次演習の授業内で配付するパンフレットを見ること。万一受け取れなかった場合は、フランス文学科共同研究室で受け取る。また、不明の点は指導教員に確認すること。

論文審査について

卒業論文の審査は、主査と副査の2名で行う。主査は指導教員とし、副査はフランス文学科所属の専任教員の中から主査が選出する。以下の項目を評価基準とし、総合的に判断する。

- ・ 対象を深く理解し、明解かつ説得的に書かれているか。
- ・ 論理的に構成されているか。
- ・ 用語や文章は的確で、表現力に優れているか。
- ・ 資料を適切に選択し、有効に活用しているか。
- ・ 論文としての独創性が認められる

<卒業論文と9月卒業>

- ・ 在学5年目以上の学生が下記条件をすべて満たしている場合、卒業論文を9月卒業の申請科目にすることができる。
 - (1) 前年度までに「4年次演習」の単位を修得していること。
 - (2) 前年度までに最低1年は「卒業論文」の履修履歴があること。
 - (3) 卒業希望年度に、「卒業論文」の履修、あるいは、「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
 - (4) 指導教授または主任教授に、9月卒業のための「卒業論文」履修の許可を得ていること。
- ・ 9月卒業のための「卒業論文」履修希望者は、所定の「履修許可申込書」に指導教授または主任教授の署名捺印を受け、他の申請書類と合わせて、教務課に提出すること。
- ・ 履修申請者は、卒業論文を7月第1火曜日・水曜日に教務課に提出する。
- ・ 審査、口頭試問に合格した場合、春学期末に単位を修得できる。
- ・ 上記日に未提出、あるいは審査結果が不合格になった場合、一般の学生と同じ1月の期日に再提出することで、3月卒業の可能性はある。
- ・ 卒業論文の単位を修得できても、他の卒業要件単位が春学期末に未修得であれば、卒業論文の単位は年度末の修得となる。
- ・ レンヌ大学、エクサンプロヴァンス政治学院、ニース・ソフィア・アンティポリス大学への認定留学生で、9月卒業を希望する者は、留学出発前に指導教授および教務課に相談すること。

(6) 文学部共通科目

配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考	配当年次	科目名	単位数	開講方式	備考
3	日本文学(専)A・B	2・2	学期		3	ラテン語1A・B	2・2	学期	(注14)
3	中国文学A・B	2・2	学期		3	ラテン語2A・B	2・2	学期	
3	ドイツ文学A・B	2・2	学期		3	小説技法A・B	2・2	学期	
3	西洋文学A・B	2・2	学期		3	翻訳論A・B	2・2	学期	
2	異文化理解1・2	2・2	学期		3	Practical Career English A・B	2・2	学期	
3	異文化理解3・4	2・2	学期		3	文化史A・B	2・2	学期	
3	哲学(専)1・2	2・2	学期	(注13)	3	民俗学A・B	2・2	学期	
3	言語学A・B	2・2	学期						

(注13) 「哲学(専)1・2」を履修するためには、明治学院共通科目〔D群科目〕の「哲学1～8」「倫理学1～7」「倫理学1～8」のうち同一名称科目で、2科目4単位を修得していなければならない。

(注14) 明治学院共通科目〔E群科目〕の「ラテン語研究A・B」を修得した者は、文学部共通科目「ラテン語1A・B」を履修できない。

〔8〕文学部他学科の学科科目

下記の科目を除き、文学部他学科の学科科目をVI（明学科目および学科科目部門）の単位として18単位まで、またIX（学科科目・選択科目部門）の単位として12単位まで、卒業要件単位に含めることができる。履修条件が付されている場合があるので、履修の際は各学科の項を参照すること。

（1）英文学科

Reading A	Academic Writing A	英語教育基礎論A
Reading B	Academic Writing B	英語教育基礎論B
Listening and Pronunciation A	Academic Reading A	英語教育方法論A
Listening and Pronunciation B	Academic Reading B	英語教育方法論B
Advanced Academic Writing	Academic English Skills A	英語教育実践論A
基礎演習1	Academic English Skills B	英語教育実践論B
基礎演習2	イギリス文学3年次演習	英語教育評価論A
Topics in British Culture A	イギリス文学4年次演習	英語教育評価論B
Topics in British Culture B	アメリカ文学3年次演習	Current Topics in ELT A
Topics in American Culture A	アメリカ文学4年次演習	Current Topics in ELT B
Topics in American Culture B	英語学3年次演習	英語教育3年次演習
Topics in Linguistics A	英語学4年次演習	英語教育4年次演習
Topics in Linguistics B	卒業論文	
Listening and Speaking A		
Listening and Speaking B		

（2）芸術学科 音楽学コース

西洋音楽通史P	音楽理論演習2 B	音楽学研究1 A
西洋音楽通史S	音楽学基礎演習	音楽学研究1 B
音楽概論	音楽学資料講読	音楽学研究2 A
音楽理論演習1 A	音響表現論演習A	音楽学研究2 B
音楽理論演習1 B	音響表現論演習B	楽書演習A
音楽理論演習2 A	音楽分析演習	楽書演習B

芸術学科 映像芸術学コース

映像芸術学演習1	映像芸術学演習3	映像学文献講読A
映像芸術学演習2	映像理論演習	映像学文献講読B

芸術学科 美術史学コース

日本・東洋美術通史P	西洋美術史資料講読A	西洋美術史研究A
日本・東洋美術通史S	西洋美術史資料講読B	西洋美術史研究B
デッサンA	日本・東洋美術史演習	
デッサンB	西洋美術史演習	

芸術学科 芸術メディア論コース

メディア・コミュニケーション論序説P	芸術メディア論2年次演習1 B	芸術メディア論文献講読1 A
メディア・コミュニケーション論序説S	芸術メディア論2年次演習2 A	芸術メディア論文献講読1 B
メディア文化社会論序説P	芸術メディア論2年次演習2 B	芸術メディア論文献講読2 A
メディア文化社会論序説S	芸術メディア論3年次演習1	芸術メディア論文献講読2 B
芸術メディア論2年次演習1 A	芸術メディア論3年次演習2	

芸術学科 演劇身体表現コース

演劇概論P	演劇身体表現文献講読1 A	日本演劇研究A
演劇概論S	演劇身体表現文献講読1 B	日本演劇研究B
演劇身体表現論2年次演習1	演劇身体表現文献講読2 A	コンテンポラリーダンス論A
演劇身体表現論2年次演習2	演劇身体表現文献講読2 B	コンテンポラリーダンス論B
演劇身体表現論3年次演習1	西洋演劇研究A	ミュージカル研究A
演劇身体表現論3年次演習2	西洋演劇研究B	ミュージカル研究B

芸術学科 総合芸術学コース

キリスト教芸術P	キリスト教芸術S
----------	----------

芸術学科 各系列コース共通

卒論ゼミナール	芸術学概論P
卒業論文	芸術学概論S

学芸員課程関係 ※学芸員課程は芸術学科以外の学生は履修できません。(P.7466 参照)

〔9〕教職に関する科目

教職に関する科目のうち、「フランス語科教育研究1・2・3・4」の科目（8単位）を単位群Ⅸの単位として卒業要件単位に含めることができる。

教職課程の履修については別冊の『教職課程履修要項』を参照すること。

〔10〕フランス語既習者の履修

高等学校（帰国生徒の場合はそれにあたるもの）でフランス語を修得し十分な学力を身につけた者は、1年次で明学科目のフランス語および学科科目(2)フランス語科目のなかの「Exercices Pratiques 1 A・B」の単位を下記のクラスで履修すること。ただし、通常クラスを希望する者は、主任教授の許可を得たうえで、通常クラスを履修することができる。~~また、2年次には「Exercices Pratiques 2 A・B」のみ特設クラスを設ける。~~

科 目 名	履修クラス名
(1) 明学科目	
C1211 フランス語 1 A	㊦C1211 フランス語 1 A
C1212 フランス語 1 B	㊦C1212 フランス語 1 B
C1213 フランス語 2 A	㊦C1213 フランス語 2 A
C1214 フランス語 2 B	㊦C1214 フランス語 2 B
(2) フランス語科目	
Exercices Pratiques 1 A	㊦Exercices Pratiques 1 A
Exercices Pratiques 1 B	㊦Exercices Pratiques 1 B
フランス語科目(2年次)	
Exercices Pratiques 2 A	㊦Exercices Pratiques 2 A
Exercices Pratiques 2 B	㊦Exercices Pratiques 2 B

〔11〕再履修クラス

フランス文学科では次の必修科目の再履修クラスを開講する。

科 目 名	再履修クラス名	開講校地
(1) フランス学基礎科目		
フランス文学史 A	㊦ フランス文学史 A	白金
フランス文学史 B	㊦ フランス文学史 B	
基礎研究 A	㊦ 基礎研究 A	
基礎研究 B	㊦ 基礎研究 B	
(2) フランス語科目		
フランス語講読 1 A	㊦ フランス語講読 1 A	横浜
フランス語講読 1 B	㊦ フランス語講読 1 B	
Exercices Pratiques 1 A	㊦ Exercices Pratiques 1 A	
Exercices Pratiques 1 B	㊦ Exercices Pratiques 1 B	
Exercices Pratiques 2 A	㊦ Exercices Pratiques 2 A	白金
Exercices Pratiques 2 B	㊦ Exercices Pratiques 2 B	
フランス語表現法 1 A	㊦ フランス語表現法 1 A	
フランス語表現法 1 B	㊦ フランス語表現法 1 B	
(3) 明学共通科目・フランス語		
C1211 フランス語 1 A	㊦ C1211 フランス語 1 A	横浜
C1212 フランス語 1 B	㊦ C1212 フランス語 1 B	
C1213 フランス語 2 A	㊦ C1213 フランス語 2 A	
C1214 フランス語 2 B	㊦ C1214 フランス語 2 B	
E2411 フランス語研究 1 A	㊦ E2411 フランス語研究 1 A	白金
E2412 フランス語研究 1 B	㊦ E2412 フランス語研究 1 B	
E2413 フランス語研究 2 A	㊦ E2413 フランス語研究 2 A	
E2414 フランス語研究 2 B	㊦ E2414 フランス語研究 2 B	

2年次配当科目である「フランス文学史 A・B」「基礎研究 A・B」「Exercices Pratiques 2 A・B」「フランス語表現法 1 A・B」「フランス語研究 1 A・B」「フランス語研究 2 A・B」の再履修者は、原則として白金校舎で開講される各再履修者クラスを受講すること。白金校舎での受講ができない場合は、授業開始日までにフランス文学科共同研究室から許可を得ること。

フランス文学科科目部門別一覧

(1)フランス学基礎科目	単位	開講	年次		単位	開講	年次
○ フランス学概説 A・B	2・2	学期	1	○ フランス文学史 A・B	2・2	学期	2
○ フランスの歴史 A・B	2・2	学期	1	○ 基礎研究 A・B	2・2	学期	2
○ フランス文化研究 A・B	2・2	学期	1				
(2)フランス語科目							
○ フランス語講読 1 A・B	1・1	学期	1	△ 実用フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ フランス語講読 2 A・B	1・1	学期	3	△ 時事フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ Exercices Pratiques 1 A・B	1・1	学期	1	△ 観光フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ Exercices Pratiques 2 A・B	1・1	学期	2	検定対策フランス語 1 A・B	1・1	学期	1
△ Exercices Pratiques 3 A・B	1・1	学期	3	検定対策フランス語 2 A・B	1・1	学期	1
△ Exercices Pratiques 4 A・B	1・1	学期	3	検定対策フランス語 3 A・B	1・1	学期	3
○ フランス語表現法 1 A・B	1・1	学期	2	Communication niveau avancé	2	学期	1
△ フランス語表現法 2 A・B	1・1	学期	3	Préparation au DELF A・B	1・1	学期	3
△ 仏会話 1 A・B	1・1	学期	3	Préparation au TCF A・B	1・1	学期	3
△ 仏会話 2 A・B	1・1	学期	3				
(3)フランス学発展科目							
①ことばと文学				②思想と社会			
◇ フランス語の諸相 A・B	2・2	学期	3	◇ 歴史記述論 A・B	2・2	学期	3
◇ フランス語史 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス現代史 A・B	2・2	学期	3
◇ 現代翻訳論 A・B	2・2	学期	3	◇ 日仏比較論 A・B	2・2	学期	3
◇ 中世・ルネサンス文学 A・B	2・2	学期	3	◇ フランコフォニー研究 A・B	2・2	学期	3
◇ 17・18世紀文学 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス社会の諸相 A・B	2・2	学期	3
◇ 近現代の文学 A・B	2・2	学期	3	◇ 現代思想 A・B	2・2	学期	3
◇ 詩と演劇 A・B	2・2	学期	3	◇ 哲学と人間 A・B	2・2	学期	3
◇ 小説と批評 A・B	2・2	学期	3	◇ 精神分析入門 A・B	2・2	学期	3
◇ フランス学特講 1 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス学特講 2 A・B	2・2	学期	3
③芸術と文化							
◇ 現代芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 映画芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 写真芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 舞台表現論 A・B	2・2	学期	3				
◇ 身体と芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランス美術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 表象メディア論 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランスの音楽 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランス学特講 3 A・B	2・2	学期	3				
(4)専門演習							
○ 3年次演習	2	通年	3	○ 4年次演習	2	通年	4
(5)卒業論文							
○ 卒業論文	6	通年	4				
(6)文学部共通科目							
日本文学(専) A・B	2・2	学期	3	ラテン語 1 A・B	2・2	学期	3
中国文学 A・B	2・2	学期	3	ラテン語 2 A・B	2・2	学期	3
ドイツ文学 A・B	2・2	学期	3	Practical Career English A・B	2・2	学期	3
西洋文学 A・B	2・2	学期	3	小説技法 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 1・2	2・2	学期	2	翻訳論 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 3・4	2・2	学期	3				
哲学(専) 1・2	2・2	学期	3				
言語学 A・B	2・2	学期	3				

(1) フランス学基礎科目	単位	開講	年次		単位	開講	年次
○ フランス学概説 A・B	2・2	学期	1	○ フランス文学史 A・B	2・2	学期	2
○ フランスの歴史 A・B	2・2	学期	1	○ 基礎研究 A・B	2・2	学期	2
○ フランス文化研究 A・B	2・2	学期	1				
(2) フランス語科目							
○ フランス語講読 1 A・B	1・1	学期	1	△ 実用フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ フランス語講読 2 A・B	1・1	学期	3	△ 時事フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ Exercices Pratiques 1 A・B	1・1	学期	1	△ 観光フランス語 A・B	1・1	学期	3
○ Exercices Pratiques 2 A・B	1・1	学期	2	検定対策フランス語 1 A・B	1・1	学期	1
△ Exercices Pratiques 3 A・B	1・1	学期	3	検定対策フランス語 2 A・B	1・1	学期	1
△ Exercices Pratiques 4 A・B	1・1	学期	3	検定対策フランス語 3 A・B	1・1	学期	3
○ フランス語表現法 1 A・B	1・1	学期	2	Communication niveau avancé	2	学期	1
△ フランス語表現法 2 A・B	1・1	学期	3	Préparation au DELF A・B	1・1	学期	3
△ 仏会話 1 A・B	1・1	学期	3	Préparation au TCF A・B	1・1	学期	3
△ 仏会話 2 A・B	1・1	学期	3				
(3) フランス学発展科目							
① ことばと文学				② 思想と社会			
◇ フランス語の諸相 A・B	2・2	学期	3	◇ 歴史記述論 A・B	2・2	学期	3
◇ フランス語史 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス現代史 A・B	2・2	学期	3
◇ 現代翻訳論 A・B	2・2	学期	3	◇ 日仏比較論 A・B	2・2	学期	3
◇ 中世・ルネサンス文学 A・B	2・2	学期	3	◇ フランコフォニー研究 A・B	2・2	学期	3
◇ 17・18世紀文学 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス社会の諸相 A・B	2・2	学期	3
◇ 近現代の文学 A・B	2・2	学期	3	◇ 現代思想 A・B	2・2	学期	3
◇ 詩と演劇 A・B	2・2	学期	3	◇ 哲学と人間 A・B	2・2	学期	3
◇ 小説と批評 A・B	2・2	学期	3	◇ 精神分析入門 A・B	2・2	学期	3
◇ フランス学特講 1 A・B	2・2	学期	3	◇ フランス学特講 2 A・B	2・2	学期	3
③ 芸術と文化							
◇ 現代芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 映画芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 写真芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 舞台表現論 A・B	2・2	学期	3				
◇ 身体と芸術 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランス美術 A・B	2・2	学期	3				
◇ 表象メディア論 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランスの音楽 A・B	2・2	学期	3				
◇ フランス学特講 3 A・B	2・2	学期	3				
(4) 専門演習							
○ 3 年次演習	2	通年	3	○ 4 年次演習	2	通年	4
(5) 卒業論文							
○ 卒業論文	6	通年	4				
(6) 文学部共通科目							
日本文学(専) A・B	2・2	学期	3	ラテン語 1 A・B	2・2	学期	3
中国文学 A・B	2・2	学期	3	ラテン語 2 A・B	2・2	学期	3
ドイツ文学 A・B	2・2	学期	3	Practical Career English A・B	2・2	学期	3
西洋文学 A・B	2・2	学期	3	小説技法 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 1・2	2・2	学期	2	翻訳論 A・B	2・2	学期	3
異文化理解 3・4	2・2	学期	3				
哲学(専) 1・2	2・2	学期	3				
言語学 A・B	2・2	学期	3				

芸術学科

芸術学科

(履修の方法)

指導の方針——価値の多様化が—芸術にあっても—とどまるところを知らぬげに見える今日、主体的な享受をすすめて創造者と享受者一般との有効・適切な橋渡しに任じる人材が育つよう、本学科は——

- (1) 専門性を深める個別的芸術学の研究・教育を主軸とし、
- (2) そのなかで、個別を包みこむ基本的な問題意識をも培い、
- (3) 加えて可能な限り学際的な視野をあわせて与えることにつとめたい。

さらに研究者の進路をめざす者には、そのために必要な基礎となるものを修得させる。

芸術が術 ars であるからには、その ars に触れる上で不可欠な実習は行うが、実技者養成を目的とする実技指導は行わない。

所属コースについて

本学科は、音楽学コース、映像芸術学コース、美術史学コース、芸術メディア論コース、演劇身体表現コース、総合芸術学コースの6コースによって構成される。学生は全員、1年次の定められた期間に2年次以降どのコースに属したいか希望を提出する。コースの定員は総合芸術学コースを除き各約30名とし、定員を超過した場合は所定の審査に基づき決定される。なお、定められた期限までにコース希望を提出しなかった場合には本学科がコースを指定するので注意すること。

所属コースの変更は、原則として2年次の定められた期間に、定められた条件を満たす場合に限り申請することができ、所定の審査の上、決定される。なお、例外的に3年次の定められた期間に、定められた条件を満たす場合に限り、申請を受け付ける場合がある。その場合も、決定は所定の審査を経てなされる。

[1] 卒業までに必要な単位数

部 門		卒業までに必要な単位数					
		《音楽学コース》	《映像芸術学コース》 《美術史学コース》	《芸術メディア論コース》 《演劇身体表現コース》	《総合芸術学コース》		
明治学院共通科目	キリスト教基本科目	I	4単位(注1)			計26単位	
	外国語科目	英語 4単位	II	12単位(注2)			
		初習語 8単位					
	情報処理科目	III	2単位(注3)				
	自由選択	IV	8単位(注4)				
明治学院共通科目 および 学科科目		V	24単位(注5)			計24単位	
学科科目	必修科目(選択必修科目を含む)	VI	44単位(注6)	46単位(注6)	44単位(注6)	32単位(注6)	計74単位
	選択科目	VII	30単位(注7)	28単位(注8)	30単位(注7)	42単位(注9)	
合 計						124単位	

- (注1) Iのキリスト教基本科目は、「キリスト教の基礎A・B」(1年次配当)の2科目が必修である。
- (注2) 外国語科目は、英語4単位(英語コミュニケーション1A・1B・2A・2B)のほか、初習語としてフランス語、ドイツ語、中国語の3言語から1言語を選択し8単位を修得しなければならない。(内訳は明治学院共通科目C群科目から4単位とE群科目の「〇〇語研究1A・1B・2A・2B」から4単位)。
必修の英語(4単位)および選択必修のフランス語、ドイツ語、中国語(同一言語で8単位)以外の外国語を修得した場合は、IVの明治学院共通科目自由選択部門または、Vの明治学院共通科目および学科科目部門の単位に算入される。
なお、外国人留学生については、日本語4単位(日本語1A・1Bと日本語2A・2B)とフランス語、ドイツ語、中国語から1言語で8単位を修得すること。「英語コミュニケーション」については、スペイン語・ロシア語、韓国語と同様に選択科目として履修可能とする。
- (注3) コンピュータリテラシー1(2単位)または、コンピュータリテラシー2(2単位)のうちから、1科目(必修・2単位)を選択し、修得しなければならない。
ただし、コンピュータリテラシー研究1A(2単位)、コンピュータリテラシー研究1B(2単位)、コンピュータリテラシー研究2A(2単位)、コンピュータリテラシー研究2B(2単位)から2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。
- (注4) IVの自由選択8単位は、明治学院共通科目から修得すること。9単位以上の単位は、Vの単位として扱われる。
- (注5) Vは、明治学院共通科目、芸術学科科目(文学部共通科目を含む)、文学部他学科の学科科目から24単位修得すること。ただし、〔7〕文学部他学科の学科科目の項に記載の科目を除く。
- (注6) 必修科目、選択必修科目については、〔6〕学科科目の項を参照すること。
- (注7) 《音楽学コース・芸術メディア論コース・演劇身体表現コース》
VIIの学科科目(選択科目)は、30単位修得すること。31単位以上の単位は、Vの単位として扱われる。
VIIの学科科目(選択科目)中に、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて16単位まで含めることができる。ただし、〔7〕文学部他学科の学科科目の項に記載の科目を除く。なお、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて17単位以上修得した場合、17単位めからはVの単位として扱われる。
- (注8) 《映像芸術学コース・美術史学コース》
VIIの学科科目(選択科目)は、28単位修得すること。29単位以上の単位は、Vの単位として扱われる。
VIIの学科科目(選択科目)中に、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて16単位まで含めることができる。ただし、〔7〕文学部他学科の学科科目の項に記載の科目を除く。なお、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて17単位以上修得した場合、17単位めからはVの単位として扱われる。
- (注9) 《総合芸術学コース》
VIIの学科科目(選択科目)は、42単位修得すること。43単位以上の単位は、Vの科目として扱われる。VIIの学科科目(選択科目)中に、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて16単位まで含めることができる。ただし、〔7〕文学部他学科の学科科目の項に記載の科目を除く。なお、文学部共通科目と文学部他学科の学科科目を合わせて17単位以上修得した場合、17単位めからはVの単位として扱われる。

《音楽学コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	卒業論文と卒論ゼミナールは一度履修すると、単位を修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
		音楽学コース	西洋音楽通史 P・S	
	音楽概論	2		
	音楽理論演習 1 A・B	1・1		
	音楽学基礎演習	2		
	音楽学資料講読	2		
	音楽理論演習 2 A	1		
	音楽学研究 1 A・B	2・2		
	音楽学研究 2 A・B	2・2		
	音楽分析演習	2		
	卒業論文	6		
	卒論ゼミナール	2		
	必修科目 合計		35単位	
	VI 選択必修科目	音 ㉠	映画史通説 P・S	
西洋美術通史 P・S			2・2	
日本・東洋美術通史 P・S			2・2	
メディア・コミュニケーション論序説 P・S			2・2	
身体表現論概説 P・S			2・2	
音 ㉡		楽書演習 A・B	1・1	1科目は必修 2科目めからは選択 1
選択必修科目 合計		9単位		
VII 選択科目	選択 1	音楽学コース関係科目	14~30単位	選択科目30単位に、「選択 2」分野の単位を16単位まで含めることができる。 規定単位以上修得した場合は、「V 明治学院共通科目および学科科目」の単位として扱われる。
		映像芸術学コース関係科目		
		美術史学コース関係科目		
		芸術メディア論コース関係科目		
		演劇身体表現コース関係科目		
		総合芸術学コース関係科目		
	選択科目 1 小計	14~30単位		
	選択 2	文学部共通科目	16単位まで	
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目 2 小計		
選択科目 合計		30単位		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計		74単位		
V 明治学院共通科目および学科科目		24単位		

《映像芸術学コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	卒業論文と卒論ゼミナールは一度履修すると、単位を修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
	映像 芸術学 コース	映画史通説 P・S	2・2	
		映像基礎研究 P・S	2・2	
		映像理論演習	4	
		映像学文献講読 A・B	1・1	
		卒業論文	6	
		卒論ゼミナール	2	
必修科目 合計		26単位		
VI 選択必修科目	映 ㉠	西洋音楽通史 P・S	2・2	4科目は必修 5科目めは選択1
		西洋美術通史 P・S	2・2	
		日本・東洋美術通史 P・S	2・2	
		メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	
		身体表現論概説 P・S	2・2	
	映 ㉡	映像芸術学演習 1	2	2科目は必修 3科目めからは選択1
		映像芸術学演習 2	2	
		映像芸術学演習 3	2	
	映 ㉢	映画史演習	4	1科目は必修 2科目めからは選択 1
		映像文化研究	4	
	映 ㉣	映画史特講 1 A・B	2・2	2科目は必修 3科目めからは選択 1
		映画史特講 2 A・B	2・2	
	選択必修科目 合計		20単位	
	VII 選択科目	選択 1	音楽学コース関係科目	12~28単位
映像芸術学コース関係科目				
美術史学コース関係科目				
芸術メディア論コース関係科目				
演劇身体表現コース関係科目				
総合芸術学コース関係科目				
選択科目 1 小計				
選択 2		文学部共通科目	16単位まで	
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目 2 小計		
選択科目 合計		28単位		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計			74単位	
V 明治学院共通科目および学科科目			24単位	

《美術史学コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	卒業論文と卒論ゼミナールは一度履修すると、単位を修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
	美術史学コース	西洋美術通史 P・S	2・2	
		日本・東洋美術通史 P・S	2・2	
		西洋美術史資料講読 A・B	1・1	
		日本・東洋美術史資料講読 A・B	1・1	
		卒業論文	6	
		卒論ゼミナール	2	
	必修科目 合計		24単位	
VI 選択必修科目	美 ㉒	西洋音楽通史 P・S	2・2	2科目は必修 3科目めからは選択1
		映画史通説 P・S	2・2	
		メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	
		身体表現論概説 P・S	2・2	
	美 ㉓	西洋美術史研究 A・B	2・2	4科目は必修 5科目めからは選択1
		美術史の理論と方法 A・B	2・2	
		西洋美術史特講 1 A・B	2・2	
		西洋美術史特講 2 A・B	2・2	
	美 ㉔	日本・東洋美術史研究 A・B	2・2	4科目は必修 5科目めからは選択1
		日本美術史特講 1 A・B	2・2	
		日本美術史特講 2 A・B	2・2	
		日本近代美術史 A・B	2・2	
	美 ㉕	西洋美術史演習	2	1科目は必修、 2科目以上は選択1
		日本・東洋美術史演習	2	
	選択必修科目 合計		22単位	
	VII 選択科目	選択 1	音楽学コース関係科目	12～28単位
映像芸術学コース関係科目				
美術史学コース関係科目				
芸術メディア論コース関係科目				
演劇身体表現コース関係科目				
総合芸術学コース関係科目				
選択科目 1 小計				
選択 2		文学部共通科目	16単位まで	
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目 2 小計		
選択科目 合計		28単位		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計		74単位		
V 明治学院共通科目および学科科目		24単位		

《芸術メディア論コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	卒業論文と卒論ゼミナールは一度履修すると、単位を修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
	芸術メディア論コース	メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	
		メディア文化社会論序説 P・S	2・2	
		芸術メディア論2年次演習1 A・B	1・1	
		芸術メディア論2年次演習2 A・B	1・1	
		卒業論文	6	
		卒論ゼミナール	2	
	必修科目 合計		24単位	
VI 選択必修科目	メ ㉒	西洋音楽通史 P・S	2・2	4科目は必修、 5科目めからは選択1
		映画史通説 P・S	2・2	
		西洋美術通史 P・S	2・2	
		日本・東洋美術通史 P・S	2・2	
		身体表現論概説 P・S	2・2	
	メ ㉓	芸術メディア論3年次演習1	2	1科目は必修、 2科目以上の履修は不可
		芸術メディア論3年次演習2	2	
	メ ㉔	芸術メディア論文献講読1 A・B	1・1	2科目は必修、 3科目めからは選択1
		芸術メディア論文献講読2 A・B	1・1	
	メ ㉕	デジタルアート論 A・B	2・2	4科目は必修、 5科目めからは選択1
		メディア実践論 A・B	2・2	
		ポピュラーカルチャー論 A・B	2・2	
		建築・都市空間論 A・B	2・2	
		デザイン論 A・B	2・2	
		メディア産業論 A・B	2・2	
	選択必修科目 合計		20単位	
	VII 選択科目	選択1	音楽学コース関係科目	14~30単位
映像芸術学コース関係科目				
美術史学コース関係科目				
芸術メディア論コース関係科目				
演劇身体表現コース関係科目				
総合芸術学コース関係科目				
選択科目1 小計		14~30単位		
選択2		文学部共通科目	16単位まで	
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目2 小計		
選択科目 合計		30単位		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計			74単位	
V 明治学院共通科目および学科科目			24単位	

《演劇身体表現コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	卒業論文と卒論ゼミナールは一度履修すると、単位を修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
	演劇 身体表現 コース	演劇概論 P・S	2・2	
		身体表現論概説 P・S	2・2	
		演劇身体表現論 2 年次演習 1	2	
		演劇身体表現論 2 年次演習 2	2	
		卒業論文	6	
		卒論ゼミナール	2	
必修科目 合計			24単位	
VI 選択必修科目	演 ④	西洋音楽通史 P・S	2・2	4 科目は必修、 5 科目めからは選択 1
		映画史通説 P・S	2・2	
		西洋美術通史 P・S	2・2	
		日本・東洋美術通史 P・S	2・2	
		メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	
	演 ⑤	演劇身体表現論 3 年次演習 1	2	1 科目は必修、 2 科目めは選択 1
		演劇身体表現論 3 年次演習 2	2	
	演 ⑥	演劇身体表現文献講読 1 A・B	1・1	2 科目は必修、 3 科目めからは選択 1
		演劇身体表現文献講読 2 A・B	1・1	
	演 ⑦	西洋演劇研究 A・B	2・2	4 科目は必修、 5 科目めからは選択 1
		日本演劇研究 A・B	2・2	
		演劇学 A・B	2・2	
		バレエ研究 A・B	2・2	
	選択必修科目 合計			20単位
VII 選択科目	選択 1	音楽学コース関係科目	14~30単位	選択科目30単位に、「選択 2」分野の単位を16単位まで含めることができる。 規定単位以上修得した場合は、「V 明治学院共通科目および学科科目」の単位として扱われる。
		映像芸術学コース関係科目		
		美術史学コース関係科目		
		芸術メディア論コース関係科目		
		演劇身体表現コース関係科目		
		総合芸術学コース関係科目		
	選択 2	文学部共通科目	16単位まで	
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目 2 小計		
		選択科目 合計		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計			74単位	

V 明治学院共通科目および学科科目	24単位	
-------------------	------	--

《総合芸術学コース 学科科目》

VI 必修科目	コース共通	芸術学概論 P・S	2・2	
	総合芸術学コース	キリスト教芸術 P・S	2・2	
	必修科目 合計		8単位	
VI 選択必修科目	総 ㉠	西洋音楽通史 P・S	2・2	6科目は必修、 7科目めからは選択1
		映画史通説 P・S	2・2	
		西洋美術通史 P・S	2・2	
		日本・東洋美術通史 P・S	2・2	
		メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	
		身体表現論概説 P・S	2・2	
	総 ㉡	思想と芸術 A・B	2・2	6科目は必修 7科目めからは選択1
		現代社会と芸術 1 A・B	2・2	
		現代社会と芸術 2 A・B	2・2	
		現代社会と芸術 3 A・B	2・2	
		芸術表現論	2	
		アートマネジメント論	2	
	選択必修科目 合計		24単位	
VII 選択科目	選択1	音楽学コース関係科目※		選択科目42単位に、「選択2」分野の単位を16単位まで含めることができる。 規定単位以上修得した場合は、「V 明治学院共通科目および学科科目」の単位として扱われる。 ※卒業論文と卒論ゼミナールを除く。
		映像芸術学コース関係科目※		
		美術史学コース関係科目※		
		芸術メディア論コース関係科目※		
		演劇身体表現コース関係科目※		
		総合芸術学コース関連科目		
	選択科目1 小計	26～42単位		
	選択2	文学部共通科目		
		文学部他学科の学科科目		
		選択科目2 小計		
選択科目 合計		42単位		
学科科目〔必修科目・選択必修科目・選択科目〕総計			74単位	

V 明治学院共通科目および学科科目	24単位	
-------------------	------	--

〔2〕年間履修制限単位数等について

1年間に履修できる単位数は下表のとおりである。

年次	単位数	備考
第1年次	48単位	学芸員課程関係科目中必修科目11科目を含まない。
第2年次	48単位	
第3年次	48単位	
第4年次以上	48単位	

- ・1年間に履修できる単位数の上限は、48単位とする。ただし、「TESOL Seminar (短期留学)」の単位は、この中に含まない。
- ・編入生および転学科生の履修方法は個々の事情によって異なる**はず**なので、年度始めに教務課の指導を受けること。特に、転学科生の場合、新学科では転学科をしたことによる履修における特別な処置を約束するものではないことを承知しておくこと。従って、場合によっては、4年間では卒業できないこと、白金校舎と横浜校舎両方の科目の履修の必要から自分の希望するような履修ができないこと、などが起こり得る。

〔3〕履修中止除外科目について

「学修の手引き」4312ページ記載の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目 (a) ～ (g) のうち、(a) 必修のうちの芸術学科必修科目と (g) 各学科において定めている履修中止の申請ができない科目は以下のとおりである。これらの科目は所属するコースに関係なく中止できない。

各コース共通科目	芸術学概論 P・S	
音楽学コース関係科目	西洋音楽通史 P・S	音楽概論
	音楽理論演習 1 A・B	音楽学基礎演習
	音楽学資料講読	音楽理論演習 2 A
	音楽学研究 1 A・B	音楽学研究 2 A・B
	音楽分析演習	卒業論文
	卒論ゼミナール	
映像芸術学コース関係科目	映画史通説 P・S	映像基礎研究 P・S
	映像理論演習	映像学文献講読 A・B
	卒業論文	卒論ゼミナール
美術史学コース関係科目	西洋美術通史 P・S	日本・東洋美術通史 P・S
	西洋美術史資料講読 A・B	日本・東洋美術史資料講読 A・B
	卒業論文	卒論ゼミナール
芸術メディア論コース関係科目	メディア・コミュニケーション論序説 P・S	メディア文化社会論序説 P・S
	芸術メディア論 2年次演習 1 A・B	芸術メディア論 2年次演習 2 A・B
	卒業論文	卒論ゼミナール
演劇身体表現コース関係科目	演劇概論 P・S	身体表現論概説 P・S
	演劇身体表現論 2年次演習 1	演劇身体表現論 2年次演習 2
	卒業論文	卒論ゼミナール
総合芸術学コース関係科目	キリスト教芸術 P・S	
学芸員課程関係科目	博物館実習	

※上記科目は、所属するコースに関係なく中止できない。

〔4〕 明治学院共通科目

『明治学院共通科目履修の方法』を参照のこと。

〔5〕 再試験

卒業年次生のうち、卒業に必要な単位数を学科科目1科目（卒業論文は除く）の範囲内で満たすことができなかった学生につき、**当該年度**のD評価の科目を対象として再試験の機会を設ける場合がある。該当者の発表は3月の卒業生発表と同時に、試験は3月に実施する。ただし、9月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔6〕 学科科目 (VI) 必修・選択必修科目、(VII) 選択科目

- 卒業論文、卒論ゼミナール、演習（音楽理論演習1 A・B、音楽理論演習2 A・B、音響表現論演習A・B、楽書演習A・B、芸術メディア論2年次演習1 A・B、芸術メディア論2年次演習2 A・Bを除く）、および音楽学資料講読、映像文化研究、博物館実習は通年科目、それ以外はセメスター科目である。
- ※を付した科目は必修科目、音①～③、映①～④、美①～④、メ①～④、演①～④、総①～④類は選択必修科目である。
- P、Sを付した科目は、基幹となる通史または概説科目であり、両科目必修に指定されているコースを選択する場合はもちろん、そうでない場合も、PとS両方を修得することが強く望まれる。
- A、Bを付した科目は、コースまたは課程によって両科目必修に指定されていない限り、片方だけの修得が可能である。しかし、A・Bを続けて修得することが教育効果上特に望ましい場合があるので、担当教員の指導に注意すること。
- VI（必修科目（選択必修科目を含む）部門）を音楽学コース・芸術メディア論コース・演劇身体表現コースは44単位、映像芸術学コース・美術史学コースは46単位、総合芸術学コースは32単位、VII（選択科目部門）を音楽学コース・芸術メディア論コース・演劇身体表現コースは30単位、映像芸術学コース・美術史学コースは28単位、総合芸術学コースは42単位修得すること。選択科目を、音楽学コース・芸術メディア論コース・演劇身体表現コースは31単位以上、映像芸術学コース・美術史学コースは29単位以上、総合芸術学コースは43単位以上修得した場合は、V（明治学院共通科目および学科科目部門）の単位として扱われる。

1年次		2年次	
科 目 名	単位	科 目 名	単位
各コース共通科目		音楽学コース関係科目	
※芸術学概論P・S	2・2	※音楽学基礎演習	2
音楽学コース関係科目		※音楽学資料講読	
※西洋音楽通史P・S	2・2	※音楽理論演習2 A	1
※音楽概論	2	音楽理論演習2 B	1
※音楽理論演習1 A・B	1・1	音響表現論演習A・B	1・1
映像芸術学コース関係科目		映像芸術学コース関係科目	
※映画史通説P・S	2・2	映④映像芸術学演習1	2
※映像基礎研究P・S	2・2	映④映像芸術学演習2	2
映像芸術学序説P・S	2・2	映④映像芸術学演習3	2
美術史学コース関係科目		美術史学コース関係科目	
		※西洋美術史資料講読A・B	1・1
※西洋美術通史P・S	2・2	※日本・東洋美術史資料講読A・B	1・1
※日本・東洋美術通史P・S	2・2	デッサンA・B	1・1
芸術メディア論コース関係科目		芸術メディア論コース関係科目	
		※芸術メディア論2年次演習1 A・B	1・1

※メディア・コミュニケーション論序説P・S	2・2	※芸術メディア論 2年次演習 2 A・B	1・1
※メディア文化社会論序説P・S	2・2	演劇身体表現コース関係科目	
演劇身体表現コース関係科目		※演劇身体表現論 2年次演習 1	2
※演劇概論P・S	2・2	※演劇身体表現論 2年次演習 2	2
※身体表現論概説P・S	2・2	文学部共通科目	
		異文化理解 1・2	2・2

音響表現論演習 B の履修は、音響表現論演習 A を履修していることが前提である。従って、「B」の履修は前年度までに「A」の単位を修得しているか、同じ年度に「A・B」の両方を履修する場合にのみ可能である。

3年次	
科 目 名	単 位
音楽学コース関係科目	
※音楽学研究 1 A・B	2・2
※音楽学研究 2 A・B	2・2
※音楽分析演習	2
音⑧楽書演習 A・B	1・1
音楽学特講 1 A・B	2・2
音楽学特講 2 A・B	2・2
音楽学特講 3 A・B	2・2
音楽学特講 4	2
音楽学特講 5	2
音楽学特講 6	2
音楽学特講 7	2
映像芸術学コース関係科目	
※映像理論演習	4
※映像学文献講読 A・B	1・1
映◎映画史演習	4
映◎映像文化研究	4
映⑩映画史特講 1 A・B	2・2
映⑩映画史特講 2 A・B	2・2
映像芸術学特講 1 A・B	2・2
映像芸術学特講 2 A・B	2・2
映像芸術学特講 3 A・B	2・2
美術史学コース関係科目	
美⑧西洋美術史研究 A・B	2・2
美⑧美術史の理論と方法 A・B	2・2
美⑧西洋美術史特講 1 A・B	2・2
美⑧西洋美術史特講 2 A・B	2・2
美◎日本・東洋美術史研究 A・B	2・2
美◎日本美術史特講 1 A・B	2・2
美◎日本美術史特講 2 A・B	2・2
美◎日本近代美術史 A・B	2・2
美⑩西洋美術史演習	2
美⑩日本・東洋美術史演習	2
現代美術論 A・B	2・2

卒業論文で西洋美術史を専攻する予定の学生は西洋美術史演習と西洋美術史研究 A・B を、日本・東洋美術史を専攻する予定の学生は、日本・東洋美術史演習と日

本・東洋美術史研究A・Bを必ず修得すること。

3年次	
科目名	単位
芸術メディア論コース関係科目	
メ⑩芸術メディア論3年次演習1	2
メ⑩芸術メディア論3年次演習2	2
メ⑨芸術メディア論文献講読1A・B	1・1
メ⑨芸術メディア論文献講読2A・B	1・1
メ⑩デジタルアート論A・B	2・2
メ⑩メディア実践論A・B	2・2
メ⑩ポピュラーカルチャー論A・B	2・2
メ⑩建築・都市空間論A・B	2・2
メ⑩デザイン論A・B	2・2
メ⑩メディア産業論A・B	2・2
芸術メディア論特講1A・B	2・2
芸術メディア論特講2A・B	2・2
演劇身体表現コース関係科目	
演⑩演劇身体表現論3年次演習1	2
演⑩演劇身体表現論3年次演習2	2
演⑨演劇身体表現文献講読1A・B	1・1
演⑨演劇身体表現文献講読2A・B	1・1
演⑩西洋演劇研究A・B	2・2
演⑩日本演劇研究A・B	2・2
演⑩演劇学A・B	2・2
演⑩バレエ研究A・B	2・2
コンテンポラリーダンス論A・B	2・2
パフォーマンス理論A・B	2・2
ミュージカル研究A・B	2・2
舞台芸術論A・B	2・2
総合芸術学コース関係科目	
※キリスト教芸術P・S	2・2
総⑩思想と芸術A・B	2・2
総⑩現代社会と芸術1A・B	2・2
総⑩現代社会と芸術2A・B	2・2
総⑩現代社会と芸術3A・B	2・2
総⑩芸術表現論	2
総⑩アートマネジメント論	2
学芸員課程関係科目(注1)	
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館学各論A・B	2・2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論A・B	2・2
視聴覚教育メディア論A・B	2・2
文学部共通科目	
日本文学(専)A・B	2・2
中国文学A・B	2・2
ドイツ文学A・B	2・2
西洋文学A・B	2・2
異文化理解3・4	2・2
哲学(専)1・2(注2)	2・2
言語学A・B	2・2
ギリシア語1A・B	2・2

(2018年度より廃止)	
ギリシア語2A・B (2018年度より廃止)	2・2
ラテン語1A・B(注3)	2・2
ラテン語2A・B	2・2
小説技法A・B	2・2
翻訳論A・B	2・2
Practical Career English A・B	2・2
文化史A・B	2・2
民俗学A・B	2・2
Practical Career English (2018年度より廃止)	2

メ⑩を付した芸術メディア論3年次演習1、芸術メディア論3年次演習2は、2科目中1科目修得すること。2科目以上の履修は不可とする。

(注1) 生涯学習概論、博物館概論、博物館学各論A・B、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論A・B、視聴覚教育メディア論A・B、博物館実習は単位を修得しても卒業要件単位とならない。詳細は学芸員の項を参照のこと。

(注2) 哲学(専)1・2は、明治学院共通科目〔D群科目〕の哲学1～8、倫理学1～7、論理学1～8のうち、同名称科目で2科目(計4単位)を修得した者に限り履修できる。

(注3) 明治学院共通科目〔E群科目〕の「ラテン語研究A・B」を修得したものは、「ラテン語1A・B」を履修できない。

4年次	
科 目 名	単 位
音楽学コース関係科目	
※卒業論文(注4・5)	6
※卒論ゼミナール(注4)	2
映像芸術学コース関係科目	
※卒業論文(注4・5)	6
※卒論ゼミナール(注4)	2
美術史学コース関係科目	
※卒業論文(注4・5)	6
※卒論ゼミナール(注4)	2
芸術メディア論コース関係科目	
※卒業論文(注4・5)	6
※卒論ゼミナール(注4)	2
演劇身体表現コース関係科目	
※卒業論文(注4・5)	6
※卒論ゼミナール(注4)	2
学芸員課程関係科目(注1)	
博物館実習(注6)	3

(注4) 芸術学科卒業論文、卒業ゼミナールについて

- イ) 総合芸術学コースは両科目を履修できない。
- ロ) 専門5コースについても、履修の可否は所定の審査により決定される。審査の結果、履修が認められない場合は、自動的に総合芸術学コースへコース変更となる。
- ハ) 履修した場合、この2科目両方を修得しなければ、卒業が認められない。また、単位が修得できなかった場合、次年度以降も継続履修となる。
- ニ) ロで示した審査は、履修前年度の秋学期に予定している。同時期に留学などで審査を受けることが難しい者は、事前に芸術学科共同研究室に赴き、指示を仰がなければならない。

(注5) 芸術学科卒業論文について

- イ) 卒業論文は、芸術の諸分野に関するテーマで、「卒論ゼミナール」担当の教員の指導のもとに書く。
- ロ) 卒業論文は、指定の日時に教務課および芸術学科共同研究室に提出する。
- ハ) 提出された論文については、審査の後口頭による試問を行う。
- ニ) 芸術学科共同研究室が配布する「卒業論文要項」を参照の上、作成すること。

(注6) 履修条件については、学芸員の項を参照のこと。

卒業論文未提出者・不合格者の9月卒業について

- * 在学5年目以上の学生が、下記条件を満たしている場合、9月卒業の申請科目に「卒業論文」を含めることができる。
 - ① 前年度までに「卒論ゼミナール」の単位を修得済であること。
 - ② 前年度までに得た「卒業論文」の評価が「D」（提出したが不合格）または「N」（未提出）であること。
 - ③ 卒業希望年度に「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
 - ④ 卒論指導担当者（それが不可能の場合は学科主任）に9月卒業を前提とした卒業論文履修者として、履修の許可を得ていること。
- * 申請者は、卒業論文を7月第一火または水曜日に教務課へ提出し、審査のうえ合格した場合、春学期末に単位を修得できる。
- * 上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、一般の学生と同じ1月の期日に改めて提出することで、3月卒業の可能性がある。
- * 卒業論文を上記期日に提出し審査に合格した場合でも、他の卒業要件単位が春学期末に未修得ならば、卒業論文は年度末に単位を修得することになる。
- * 希望者は、教務課指定の履修許可書に卒論指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類とあわせて白金校舎の教務課に提出すること。

〔7〕文学部他学科の学科科目

下記の科目を除き、文学部他学科の学科科目をV（明治学院共通科目および学科科目）の単位として24単位まで、またⅦ（学科科目・選択科目）の単位として16単位まで、卒業要件単位に含めることができる。履修条件が付されている場合があるので、履修の際は各学科の項を参照すること。

【履修できない文学部他学科の学科科目】

- | | |
|-----------|---|
| 〔英文学科〕 | 基礎演習1・2、Reading（A・B）、Listening and Pronunciation（A・B）、Topics in American Culture（A・B）、Topics in British Culture（A・B）、Topics in Linguistics（A・B）、Academic Writing（A・B）、Academic Reading（A・B）、Listening and Speaking（A・B）、英語教育基礎論（A・B）、英語教育方法論（A・B）、英語教育実践論（A・B）、英語教育評価論（A・B）、Current Topics in ELT（A・B）、Academic English Skills（A・B）、Advanced Academic Writing（イギリス文学・アメリカ文学・英語学・英語教育）3年次演習、（イギリス文学・アメリカ文学・英語学・英語教育）4年次演習、卒業論文 |
| 〔フランス文学科〕 | フランス語講読1 A・B、フランス語講読2 A・B、 白金校舎開講の 基礎研究A・B、 白金校舎開講の フランス語表現法1 A・B、3年次演習、4年次演習、卒業論文 |

芸術学科科目部門別一覧

	単位数	年次		単位数	年次
(1) 各コース共通科目					
※ 芸術学概論 P・S	2・2	1			
(2) 音楽学コース関係科目					
※ 西洋音楽通史 P・S	2・2	1	音⑤ 楽書演習 A・B	1・1	3
※ 音楽概論	2	1	音楽学特講 1 A・B	2・2	3
※ 音楽理論演習 1 A・B	1・1	1	音楽学特講 2 A・B	2・2	3
※ 音楽学基礎演習	2	2	音楽学特講 3 A・B	2・2	3
※ 音楽学資料講読	2	2	音楽学特講 4	2	3
※ 音楽理論演習 2 A	1	2	音楽学特講 5	2	3
音楽理論演習 2 B	1	2	音楽学特講 6	2	3
音響表現論演習 A・B	1・1	2	音楽学特講 7	2	3
※ 音楽学研究 1 A・B	2・2	3	※ 卒業論文	6	4
※ 音楽学研究 2 A・B	2・2	3	※ 卒論ゼミナール	2	4
※ 音楽分析演習	2	3			
(3) 映像芸術学コース関係科目					
※ 映画史通説 P・S	2・2	1	映④ 映画史特講 1 A・B	2・2	3
※ 映像基礎研究 P・S	2・2	1	映④ 映画史特講 2 A・B	2・2	3
映像芸術学序説 P・S	2・2	1	映像芸術学特講 1 A・B	2・2	3
映⑤ 映像芸術学演習 1	2	2	映像芸術学特講 2 A・B	2・2	3
映⑤ 映像芸術学演習 2	2	2	映像芸術学特講 3 A・B	2・2	3
映⑤ 映像芸術学演習 3	2	2	※ 卒業論文	6	4
※ 映像理論演習	4	3	※ 卒論ゼミナール	2	4
※ 映像学文献講読 A・B	1・1	3			
映④ 映画史演習	4	3			
映④ 映像文化研究	4	3			
(4) 美術史学コース関係科目					
※ 西洋美術通史 P・S	2・2	1	美④ 日本・東洋美術史研究 A・B	2・2	3
※ 日本・東洋美術通史 P・S	2・2	1	美④ 日本美術史特講 1 A・B	2・2	3
※ 西洋美術史資料講読 A・B	1・1	2	美④ 日本美術史特講 2 A・B	2・2	3
※ 日本・東洋美術史資料講読 A・B	1・1	2	美④ 日本近代美術史 A・B	2・2	3
デッサン A・B	1・1	2	美④ 西洋美術史演習	2	3
美⑤ 西洋美術史研究 A・B	2・2	3	美④ 日本・東洋美術史演習	2	3
美⑤ 美術史の理論と方法 A・B	2・2	3	現代美術論 A・B	2・2	3
美⑤ 西洋美術史特講 1 A・B	2・2	3	※ 卒業論文	6	4
美⑤ 西洋美術史特講 2 A・B	2・2	3	※ 卒論ゼミナール	2	4
(5) 芸術メディア論コース関係科目					
※ メディア・コミュニケーション論序説 P・S	2・2	1	メ④ メディア実践論 A・B	2・2	3
※ メディア文化社会論序説 P・S	2・2	1	メ④ ポピュラーカルチャー論 A・B	2・2	3
※ 芸術メディア論 2 年次演習 1 A・B	1・1	2	メ④ 建築・都市空間論 A・B	2・2	3
※ 芸術メディア論 2 年次演習 2 A・B	1・1	2	メ④ デザイン論 A・B	2・2	3
メ⑤ 芸術メディア論 3 年次演習 1	2	3	メ④ メディア産業論 A・B	2・2	3
メ⑤ 芸術メディア論 3 年次演習 2	2	3	芸術メディア論特講 1 A・B	2・2	3
メ④ 芸術メディア論文献講読 1 A・B	1・1	3	芸術メディア論特講 2 A・B	2・2	3
メ④ 芸術メディア論文献講読 2 A・B	1・1	3	※ 卒業論文	6	4
メ④ デジタルアート論 A・B	2・2	3	※ 卒論ゼミナール	2	4

(6) 演劇身体表現コース関係科目					
※ 演劇概論 P・S	2・2	1	演⑩ 演劇学 A・B	2・2	3
※ 身体表現論概説 P・S	2・2	1	演⑩ バレエ研究 A・B	2・2	3
※ 演劇身体表現論 2 年次演習 1	2	2	コンテンポラリーダンス論 A・B	2・2	3
※ 演劇身体表現論 2 年次演習 2	2	2	パフォーマンス理論 A・B	2・2	3
演⑨ 演劇身体表現論 3 年次演習 1	2	3	ミュージカル研究 A・B	2・2	3
演⑨ 演劇身体表現論 3 年次演習 2	2	3	舞台芸術論 A・B	2・2	3
演⑨ 演劇身体表現文献講読 1 A・B	1・1	3	※ 卒業論文	6	4
演⑨ 演劇身体表現文献講読 2 A・B	1・1	3	※ 卒論ゼミナール	2	4
演⑩ 西洋演劇研究 A・B	2・2	3			
演⑩ 日本演劇研究 A・B	2・2	3			
(7) 総合芸術学コース関係科目					
※ キリスト教芸術 P・S	2・2	3	総⑨ 現代社会と芸術 3 A・B	2・2	3
総⑨ 思想と芸術 A・B	2・2	3	総⑨ 芸術表現論	2	3
総⑨ 現代社会と芸術 1 A・B	2・2	3	総⑨ アートマネジメント論	2	3
総⑨ 現代社会と芸術 2 A・B	2・2	3			
(8) 学芸員課程関係科目					
生涯学習概論	2	3	博物館展示論	2	3
博物館概論	2	3	博物館教育論 A・B	2・2	3
博物館学各論 A・B	2・2	3	視聴覚教育メディア論 A・B	2・2	3
博物館資料保存論	2	3	博物館実習	3	4
(9) 文学部共通科目					
日本文学 (専) A・B	2・2	3	ラテン語 1 A・B	2・2	3
中国文学 A・B	2・2	3	ラテン語 2 A・B	2・2	3
ドイツ文学 A・B	2・2	3	小説技法 A・B	2・2	3
西洋文学 A・B	2・2	3	翻訳論 A・B	2・2	3
異文化理解 1・2	2・2	2	Practical Career English A・B	2・2	3
異文化理解 3・4	2・2	3	文化史 A・B	2・2	3
哲学 (専) 1・2	2・2	3	民俗学 A・B	2・2	3
言語学 A・B	2・2	3	Practical Career English (2018年度より廃止)	2	3
ギリシア語 1 A・B (2018年度より廃止)	2・2	3			
ギリシア語 2 A・B (2018年度より廃止)	2・2	3			

学芸員

本学文学部芸術学科は、学科設立の趣旨にもとづき、学芸員課程を併設する。

学芸員の職務

学芸員とは博物館におかれる専門的職員である。博物館とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して、教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（公民館、図書館を除く）をいう。

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。

学芸員の資格を得るには

博物館法に基づく学芸員の資格は、以下の3項に挙げる条件のうち、いずれかを満たす者に与えられる。

- (1) 学士の学位を有する者で大学において文部科学省令に定める科目及び単位を修得した者
- (2) 大学に2年以上在学し、(1)の博物館に関する単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補（これに相当する職等を含む）の職にあった者
- (3) 文部科学大臣が文部科学省令で定めるところにより(1)(2)に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有すると認められた者

上記の条件(1)を満たす学芸員の資格を付与するため、文学部芸術学科に、つぎの専門教育科目をおく。

科目名		単位	配当年次	本学で開講している科目名（単位）
文部科学省令に定められた必修科目	生涯学習概論	2	3年次	生涯学習概論(2)
	博物館概論	2	3年次	博物館概論(2)
	博物館経営論	2	3年次	博物館学各論A(2)
	博物館資料論	2	3年次	博物館学各論B(2)
	博物館資料保存論	2	3年次	博物館資料保存論(2)
	博物館展示論	2	3年次	博物館展示論(2)
	博物館教育論	2	3年次	博物館教育論A・B(各2) ※本学では2科目4単位が必修
	博物館情報・メディア論	2	3年次	視聴覚教育メディア論A・B(各2) ※本学では2科目4単位が必修
博物館実習	3	4年次	博物館実習(3)	
大学が定める選択必修科目	美術史	8	1年次	西洋美術通史P・S(各2)、日本・東洋美術通史P・S(各2)
			3年次	西洋美術史研究A・B(各2)、日本・東洋美術史研究A・B(各2)
	文化史		3年次	文化史A・B(各2)
	民俗学		3年次	民俗学A・B(各2)

(注) 生涯学習概論、博物館概論、博物館学各論A・B、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論A・B、視聴覚教育メディア論A・B、博物館実習の各科目は卒業単位には含まれない。

履修に関する注意

1. 芸術学科以外の学生は本課程を履修できない。
2. 本課程の履修を希望する学生は、2年次の定められた時期に行われる説明会に出席しなければならない。事前の申し出なくこれを欠席した場合は、本課程を履修する権利を失う。
3. 実習機関の実習生受け入れ能力は限られているため、課程を履修できる人数をやむを得ず制限することがある。
4. 選択必修科目は大学が定める科目区分3区分（美術史、文化史、民俗学）のうち、2区分以上8単位以上を修得すること。
※博物館法に定める科目区分の科目と、本学で開講している科目名とは異なるので注意すること。
5. 生涯学習概論、博物館概論、博物館学各論A・B、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論A・B、視聴覚メディア教育論A・Bは必ず3年次で履修しなければならない。3年次でこの科目の単位を修得していない場合には、4年次に行われる博物館実習を履修する権利を失う。
6. 前項に挙げた6科目以外の必修科目、および選択必修科目のうち8単位も、3年次終了までに修得することが望ましい。
7. 必修科目に関しては、学科の年間履修制限単位を越えて履修することができる。
8. 見学や実習にかかる交通費等の諸経費は自己負担となる。

諸資格

社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格が取得できる学科

社会福祉主事任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主事の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を営む者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年齢、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主事をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主事は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主事任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主事にはなれません。**

1. 大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2. 厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3. 厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる『**社会福祉法に定める科目**』を**3科目以上修得**することで、社会福祉主事任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています、各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部の履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。(LE: 英文学科、LF: フランス文学科、LA: 芸術学科、EE: 経済学科、EB: 経営学科、EG: 国際経営学科、SG: 社会学科、SW: 社会福祉学科、JU: 法律学科、JC: 消費情報環境法学科、JP: 政治学科、KS: 国際学科、KC: 国際キャリア学科、PS: 心理学科、PE: 教育発達学科)

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会福祉主事の資格に関する科目

社会福祉法に定める科目名	本学で開講している科目名	履修できる学科 (2014~2017年度入学生)														
		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	KS	KC	PS	PE
社会福祉概論	社会福祉学概論 A・B								○							
	D1231 社会福祉学 1 D1232 社会福祉学 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク 1A								○							
社会福祉調査論	社会福祉調査								○							
	社会調査の基礎							○								
	社会調査論											○				
	2213 社会調査法												○			
社会福祉行政論	社会福祉法制							○	○							
	福祉行財政と福祉計画							○	○							
社会保障論	社会保障論 A・B				○	○	○	○	○							
公的扶助論	公的扶助論 A							○	○							
児童福祉論	児童福祉論 A・B							○	○							
	子ども家庭福祉															※
家庭福祉論	家庭福祉論							○	○							
保育理論	保育内容の指導法															○
身体障害者福祉論	身体障害者福祉論							○	○							
知的障害者福祉論	知的障害者福祉論							○	○							
精神障害者保健福祉論	精神医学														○	
老人福祉論	高齢者福祉論 A・B							○	○							
地域福祉論	地域福祉論 A							○	○							
法学	D1201 法学(日本国憲法を含む)1 D1202 法学(日本国憲法を含む)2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
	2309 法学原論												○			
民法	民法 A・B				○	○	○	○	○			○			○	
	民法総則 1・2									○	○	○				
行政法	行政法 A・B				○	○	○	○	○							
	行政法 1-1・1-2									○	○	○				
	行政法 2-1・2-2									○	○	○				
経済学	経済学概論 1・2					○	○	○	○	○	○	○				
	財政学 1・2				○	○	○			○	○	○				
	ミカ経済政策				○	○	○					○				
	マカ経済政策				○	○	○					○				
	2205 経済原論												○			
社会政策	労働経済学 1・2				○	○	○									
心理学	心理学概論 A・B														○	
	心理学概論								○							
	心理学総論															○
社会学	社会学概論 A・B	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	社会学概論								○							
	2308 社会学原論												○			
教育学	教育の思想と歴史	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	教育原論															○
医学一般	医学知識								○							
リハビリテーション論	リハビリテーション論															※
介護概論	介護概論								○							

- (注1) 『本学で開講している科目』がない『社会福祉法に定める科目』は上記の表に掲載していません。
(注2) 『本学で開講している科目』において、科目名の後にA・B、1・2が付されている科目は、2科目セットで修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目と数えることができません。
(注3) 『社会福祉法に定める科目』の同じ区分で、本学で開講している科目を複数科目修得しても、1科目と数えます。(例えば、社会福祉学科生が「社会福祉学概論A・B」と「社会福祉学1・2」の合計4科目を修得した場合は、『社会福祉法に定める科目』の『社会福祉概論』1科目の修得と数えます。)
(注4) 表中の注釈は以下の意味です。
※：2015年度以降入学生のみ履修可能です。